圓明

令和六年　正月号（第一二一号）

大本山相国寺
相国会本部

相国寺御用達

京名菓 雲龍

雲龍は、俵屋吉富の七代目店主が相国寺所蔵の「雲龍図」（狩野洞春筆）に感銘を受け、うねる雲間を飛翔する力強い龍の姿を表現し創作した一世の名菓です。
大粒の丹波大納言小豆をはじめ、吟味を重ねた最高級の素材を用い、現在も変わらず、熟練された職人の手で、一本一本丁寧にお作りいたしております。
大切な方への心を込めた贈り物に、大切な方への心を込めた贈り物に、
京名菓　雲龍をどうぞ…。

京菓子司 俵屋吉富

本店　京都市上京区室町通上立売上ル
電話 (075) 432-2211(代)

烏丸店　京都市上京区烏丸通上立売上ル
電話 (075) 432-3101(代)

◆表紙解説

相国寺「法堂」天井画「蟠龍図」狩野光信筆

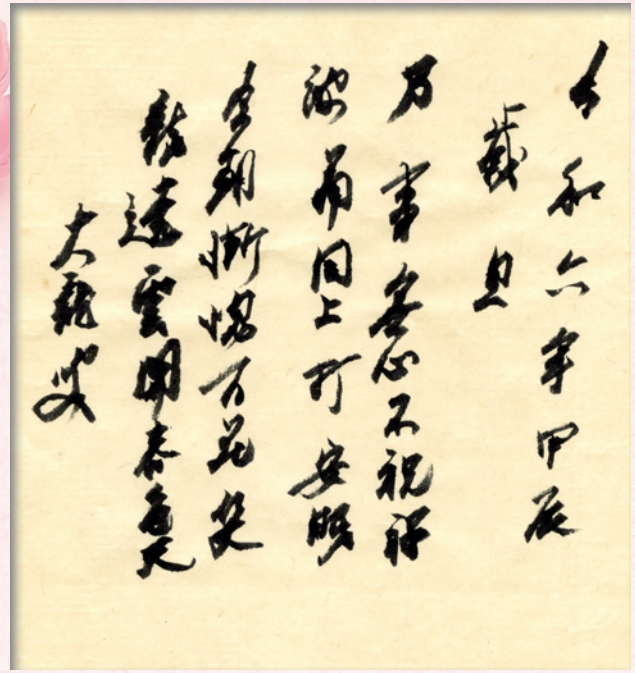
慶長十年（一六〇五）重要文化財

相国寺の法堂は、慶長十年（一六〇五）に豊臣秀頼の寄進によって再建され、我が国の法堂建築としては現存最古の建物で、仏殿を兼ねている。

「無畏堂」（住持が本来畏れることなく法を説くお堂）と称し、本尊は釈迦如来である。

撮影◎柴田明蘭

まるにくん
© 2024相国寺



歳旦祝語

管長 大龍窟 有馬頼底

令和六年甲辰
歳旦

万事無心不説禅
破蒲団上打安眠
今朝慚愧百花笑
龍遶雲開春色天

大龍叟

万事無心、禅を説かず
破蒲団上、安眠を打す
今朝慚愧、百花笑う
龍遶り雲開く、春色の天

万事無心にして、禅を説かない
破れ蒲団の上で、安眠を打している
今朝慚愧、百花が笑っている
龍が遶り雲が開いて、春色の天になった

《語注》
慚愧　自らを深く恥じる
破蒲団上　使い古した坐禅蒲団
打安眠　安眠を打す、怠けて居眠っている。なすべきことをしない

第二十七回 相国会本部研修会

五年ぶりに開催！

令和五年十月十二日～十三日

詳細は28ページ、本山だより43ページを参照

撮影◎教学部

「開講式」開山・本尊諷経

有馬管長よりご垂訓を賜る

坐禅中の研修生

記念撮影

龍安寺特別拝観

鹿苑寺特別拝観・執事長挨拶

菓子歳時記 五

「雲龍百歳」

京菓子司 俵屋吉富 店主 石原義清

令和六年、甲辰を迎えるにあたり俵屋吉富の「雲龍」も百歳を迎えることになります。

雲龍は祖父留治郎が相国寺にお出入りさせて頂いている中で、当時の山崎大耕老師から命名されたお菓子です。こし餡をそぼろにして蒸しあげた村雨餡に粒餡を巻き込んで、相国寺で留治郎が感銘を受けた雲龍図に見立てました。今までは生菓子や棹菓子の羊羹はありましたが、生菓子を自由な大きさに切り分けるという棹菓子がなかったこともあって、創作した後の数年後に百貨店で販売してみたところ大好評となり今日に至っています。パッケージも販売当初は真菰と呼ばれるイネ科の植物の葉を編んだすだれを巻いて組紐で括ったものでした。父から聞いた話では、京菓子は京都の文化をお届けするのだからと京組紐には拘っていましたが、原価の高騰とともに現在の意匠になっています。私も店主を預かり二十年が過ぎましたが、雲龍を半分のサイズにはしましたが、留治郎が考案した棹菓子を自由な大きさにというところは守ってきました。室町の工場でお菓子を作るために必要な水も井戸からの地下水を使っています。相国寺や御所と同じく地下には大きな水脈があり、その地下水でお菓子を作れるのはその土地のおかげだと感謝しております。その地下水で炊きあがった小豆を毎朝食べるのが私の日課です。そして百年たった今でも当時と変わらず職人の手で一本一本巻き上げて雲龍をご用意しています。

辰年、雲龍百歳、そして私も還暦といろいろが重なった年となりました。いい節目だと思っています。皆さまにこれからも私たちの作るお菓子で幸せな時間となって頂けますよう益々精進して参る所存です。辰年にぜひ雲龍を。

雲龍

白雲龍

相国寺を彩る樹木《第四回》

「龍と植物」

植昭　長岡造園　長岡秀晃

明けましておめでとうございます。今年は辰年ということで龍にちなんだ植物を紹介します。

最初は雲龍柳（ウンリュウヤナギ）です。雲龍と言うのは、龍が雲に乗って昇天する様を表す言葉です。雲龍柳は幹・枝・葉が捻れる性質で、大きく育つと今にも龍が出てきそうな独特の雰囲気を醸し出す樹木です。

次に紹介するのはリュウノヒゲ（龍の髭）です。龍の口の周りに生えている髭のような細長い葉を無数に生やします。リュウノヒゲを品種改良して草丈を短くしたのがタマリュウ（玉竜）です。両者ともに常緑で、暑さ寒さに強く大変育てやすいのが特徴です。タマリュウは、庭師の世界で杉苔と並ぶグランドカバーの定番です。地味な見た目ではありますが、実は夏に小さな花を咲かせ、秋から冬に青色の実を付けます。

他にも、彼岸花は独特の花の見た目から龍爪花（りゅうそうか）という別名を持っています。どれをとっても先人たちの名付けのセンスは見事なものです。

雲龍柳以外は山内で簡単に見つかりますので、探してみてください。

書院西の雲龍柳

リュウノヒゲ

タマリュウ

豆知識

庭園の維持管理に使われる除草剤。適切な濃度で使用すれば杉苔は枯れませんが、タマリュウやリュウノヒゲは枯れます。皆さんお庭で除草剤を使用する際にはご注意ください。

今昔 相国寺の一枚の写真から

相国寺に残るガラス乾板⑦「経蔵」

解説◎柴田明蘭

今回で連載七回目になる相国寺の今昔は「経蔵」です。天明の大火によって焼失した宝塔の跡地に、万延元年（一八六〇）、第一二〇世盈冲（えいちゅう）和尚の寄進により、建立されました。再建される折に、寺に伝わる『大蔵経』の保管を兼ねた二層の宝塔として今も法堂の西前にある後水尾帝髪歯塚のすぐ南側にひっそりと佇んでいます。

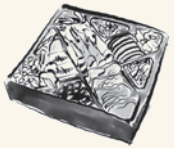
昔の写真からもわかるように境内には多くの松の木が植えてあり、現在の姿とあまり変わりのない様子が伺えます。ただ何故この松が鬱蒼と茂る場所から経蔵を撮らなければならなかったのか？という疑問です。

その答えは当時のカメラは広い範囲が写るレンズ（広角レンズ）を技術的に作ることが出来なかったからです。

現代にはより広い範囲が写せるレンズを作る技術があり、建物の近くから撮影できるので、松の木に邪魔をされず経蔵の姿を鮮明に捉えることができます。

広角レンズを使わずに昔の写真を同じ位置で撮影すると、経蔵が松の木に遮られて当時の写真に近いイメージになりました。

URL　https://www.shokoku-ji.jp
E-mail　kyogaku@shokoku-ji.jp（教学部）



本誌『円明』のバックナンバーについて、平成20年夏発行の第90号以降は、相国寺派ホームページ内でご覧いただくことが出来ます。

目次

第二十七回　相国会本部研修会　五年ぶりに開催！ ―― 2
菓子歳時記㊺「雲龍百歳」 ―― 京菓子司　俵屋吉富　店主　石原義清 ―― 4
相国寺を彩る樹木〈第四回〉龍と植物 ―― 植昭　長岡造園　長岡秀晃 ―― 6
相国寺の今昔　一枚の写真から　相国寺に残るガラス乾板⑦「経蔵」 ―― 7
謹奉賀新年 ―― 管長　大龍窟　有馬賴底 ―― 10
年頭御挨拶 ―― 宗務総長　佐分宗順 ―― 14
年頭御挨拶 ―― 相国会会長　松井八束穂 ―― 18
「円明法話」コロナ禍を経て ―― 福性寺住職　吉田厚司 ―― 22
ふるさととお寺のご縁をつむぐ ―― 感応寺住職　芝原祥三 ―― 24
第二十七回　相国会本部研修会報告 ―― 28
「新年にむけて」 ―― 演劇塾　長田学舎　斉藤浩未 ―― 33
本山だより ―― 40
坐禅会のご案内 ―― 50
教区だより ―― 52
教化活動委員会活動報告 ―― 教化活動委員会委員長　佐分宗順 ―― 63
相国寺史編纂室だより ―― 67
令和六年（二〇二四年）年忌早見表 ―― 69
「京の冬の旅」非公開文化財特別公開 ―― 84
相国寺　春の特別拝観 ―― 86
「団体参拝」申し込みの受付 ―― 87
北山だより ―― 88
東山だより ―― 89
承天閣だより　現在の展観【若冲と応挙】 ―― 90
「頂相―祖師たちの絵姿」 ―― 91
宝物拝見「中維摩居士左右雲龍図　狩野洞春筆」 ―― 92
第四十回　相国寺派寺庭婦人研修会　四年ぶりに開催！ ―― 94
心のすがた ―― 96

相国会総裁　有馬賴底
副総裁　佐分宗順
会長　松井八束穂
本部長　江上正道
令和六年　正月

内局

管務　有馬賴底
承天閣美術館名誉館長
宗務総長　豊光寺住職　佐分宗順
承天閣美術館館長
庶務部長　宗務総長兼任　佐分宗順
財務部長　慈照院副住職　久山哲永
法務執事　教学部長　眞如寺住職　江上正道
参務　光照寺住職　荒木文紹
財務・庶務部員　養源院副住職　平塚景山
教学・庶務部員　瑞春院副住職　須賀集信
承天閣美術館事務局長　是心寺住職　和田賢明
承天閣美術館参事　林光院副住職　澤宗秀
鹿苑寺執事長　普廣院住職　山木雅晶
鹿苑寺執事　長得院副住職　有浦宗健
慈照寺執事長　林光院住職　澤宗泰
慈照寺執事　豊光寺副住職　佐分昭文

宗会議員

第一教区　慈照院住職　久山隆昭
第二教区　大應寺住職　久山弘祐
第三教区　見性寺住職　梶谷承忍
副議長　第四教区　正善寺住職　頴川孝正
第四教区　眞乗寺住職　木下雅教
第五教区　富田寺住職　加藤文保
議長　第六教区　龍源寺住職　田中恵山

宗務支所正副長

第一教区　林光院住職（正）　澤宗泰
大光明寺住職（副）　矢野謙堂
第二教区　大應寺住職（正）　久山弘祐
第三教区　本派宗務総長兼任　佐分宗順
第四教区　眞乗寺住職（正）　木下雅教
園松寺住職（副）　本田真人
第五教区　富田寺住職（正）　加藤文保
第六教区　龍源寺住職（正）　田中恵山

謹奉賀新年

管長　大龍窟　有馬頼底

新年あけましておめでとうございます。相国寺派檀信徒の皆様、相国寺派各寺院をはじめ読者の皆様、無事御越年の事とお慶び申し上げます。

昨年五月にコロナウイルス感染症も五類となりましたが、いまだ多くの感染症が続いておりますので、気を付けなければなりません。その中で相国寺では昨秋よりコロナ禍以前の形式で諸行事を再開致しました。

特に昨秋は「相国会本部研修会」、「本派寺庭婦人研修会」を久々に行い、参加研修生の皆様とお目にかかる事が出来ました。また十月二十一日の開山忌法要では、多くの檀信徒の皆様が本山詣をして下さり、寺檀一体となった本来の法要の姿になりました事を、大変うれしく思います。

さて、本年は相国寺境内にある「承天閣美術館」が開館四十周年を迎えます。相国寺の什物や伝来の美術品等の保管、修復、さらには広く一般への公開展示等を目的とした美術館建設を発願し、多くの皆さまのご理解とご協力を得て、夢窓国師、普明国師をはじめとする歴代祖師への報恩の為、相国寺創建六百年記念事業の一環として開館に向けて奔走したことが、懐かしく思い返されます。

開館後は、相国寺、鹿苑寺（金閣寺）、慈照寺（銀閣寺）の寺宝展をはじめ、国内外の絵画、仏教美術、茶道具、墨蹟の企画展、あるいは巡回展などを行い、これまで多くの方々にご観覧頂きました。近年では、当館が画家「伊藤若冲」の存在を国内外に周知する役割を果たしたことも忘れてはいけません。

本年は、東京と名古屋で開館四十周年記念の特別展が開催される事になりましたので、是非とも足をお運びください。

現在、相国寺派に限らず宗門では少子高齢化と共に、後継者不足も深刻化しており、檀信徒の皆様から今後を案ずる声も聞いております。他寺の和尚様が兼務する、いわゆる兼務寺院が増え、現在兼務の和尚様方や、お世話をしていただいている檀信徒、役員の皆様に、引き続きお骨折り頂きます事に篤く御礼を申し上げます。わが派としても、これらの現状と今後の対応について向き合ってまいる所存です。

長引くロシア・ウクライナ紛争に続き、イスラエルとパレスチナの対立も一層深まっています。このような凄惨な対立の歴史は、残念ながら収まることがありません。一刻も早い事態の収束を祈ると共に、戦争に巻き込まれ犠牲となった方々へ哀悼の意を表します。

そして仏教の「和」の精神が、世界に届く事を強く強く祈念します。

『龍翔萬年春』（龍は翔ぶ 萬年の春）

「龍」は、應龍とも呼び、古来より麟（麒麟）・鳳（鳳凰）・亀（霊亀）と共に四瑞（四霊）の一つである。

「龍吟雲起」龍が吟ずれば（唸れば）、雲が起こり、雨を呼ぶという。

また、龍が現れ空高く飛翔すれば「瑞祥」とよばれ、この世の安泰と人々の長寿を祈念し、祝福する象徴になるとされる。

古来より中国では、龍は皇帝の印であり、修行の末の姿であります。その中国に、私はこれまで百回以上出かけてまいりましたが、自分の号である「大龍」にちなみ、龍に関する神話や伝承、あるいは造形美術には絶えず関心を抱いてまいりました。

「悟りを得ると龍が現れる」と言いますが、皆さまも長寿を祈り、龍に乗って空高く舞い上がるような心持ちで、辰年の一年を平和に過ごしてまいりましょう。

年頭御挨拶

宗務総長　佐分宗順

相国寺派寺院各位、檀信徒及び相国会会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

昨年はコロナウイルス感染症の影響から脱し、コロナ以前の日常を取り戻しはじめました。諸行事も通年通り厳修することができ、相国寺東京別院での坐禅会をはじめ相国会本部研修会は五年ぶりに、本派寺庭婦人研修会は四年ぶりに充実した内容で開催することができました。寺務局の努力と皆様のご協力に感謝する次第です。

さて、昨年より大きな争点となっておりました、旧統一教会の問題やそれに関連して成立した「不当寄付勧誘防止法」の問題点などを検討するため、昨年五月東洋哲学研究所との意見交換のため東京八王子の創価大学にて京都仏教会との共同研究会を開催いたしました。

さらに、東京においてキャッシュレス決済に関する研究調査のため、財務省、金融庁、その他関連団体などの動向の調査を進めてまいりました。現在ますますその普及が拡大している中、各寺院の運営の根幹を成すことであり、大きな体制の変換を伴うもので、それに伴うリスクも無視できません。けれどもリスクを恐れて立ち止まっては、時代の流れに押し流されるばかりか、寺院の主体性が問われることになります。新しい時代の拝観寺院の将来を左右する選択を迫られております。覚悟を持って、慎重に進めて参りたいと思います。京都市が導入しようとした古都税以来、常に宗教のあり方とその尊厳を問い続けてきた京都仏教会を中心に、清水寺を初め傘下の拝観寺院とも連携して、新しいキャッシュレス社会の現実に対応するため、具体的な施策を提示して参ります。

また相国寺においては、承天閣美術館開館四十周年に向け、引き続き美術館のシス

テム完成と什物の整理を目指し、データベースシステムの構造と相国寺が蔵する宝物群の歴史的経緯やその存在意義を分析した解説書の出版に向け作業を進めて参ります。

世界の情勢に目を向けると、ウクライナをはじめ、中東ではハマスのテロ攻撃に始まるイスラエルとの紛争や、台湾海峡を巡る中国の動向など不穏な情勢が続いており、注視することが求められます。私どもも、この厳しい現実を生き延びるために正確な情報を得て、それに基づく適切な対処が求められます。相国寺の日常業務においても、同様のことがいえると思います。偏見のない公正な情報の取得は、新聞やマスコミの報道だけでは困難な時代となっています。インターネットを利用した様々な手段による情報収集も、玉石混淆の情報の中から正しい情報を見極め取捨選択するのは難しいことですが、現在の私たちはその能力を身につけることが求められています。

本年も、さらなる努力を惜しむことなく業務に励んで参りますので、皆様のご協力とご精進をお願いする次第です。

皆様のご健康と発展を祈念し新年の御挨拶といたします。

年頭御挨拶

相国会会長　松井　八束穂

管長有馬頼底猊下はじめ本派寺院並びに相国会会員、檀信徒の皆様、謹んで新年のご祝詞を申し上げます。三年有余の忌まわしいコロナ禍から漸く幾多の制限が緩和され、人々に笑顔が戻り始めましたが、引き続き油断することなく前向きに日々を送りたいと存じます。

さて、昨年十月十二日・十三日には第二十七回「相国会本部研修会」が五年ぶりに開催されました。初日は相国寺拝観、坐禅研修、承天閣美術館「若冲と応挙」展を見学、二日目は朝の坐禅に始まり、龍安寺と鹿苑寺（金閣寺）の特別拝観と禅文化の真髄に深い感銘を受けました。日常の実践を通じて直感的な理解を促進する哲学であり、坐禅は深い洞察と内面を追求する手段とされています。今回の研修会で、禅は実践哲学と言われる所以を理解することが出来ました。

続いて、十月二十一日には相国寺開山夢窓国師「毎歳忌法要」が本山法堂に於いて、大勢の僧侶の重厚な読経が響きわたる中、厳粛に執り行われました。今年は福井県若狭教区と島根県出雲教区から熱心な檀信徒の皆様が大勢参拝されました。心の休まるひと時を過ごさせて頂きました。

本年の辰年は、龍（りゅう）または竜（たつ）に関しており、力強さや神秘性を象徴するとされています。法堂の天井画「蟠龍図（ばんりゅうず）」の「蟠龍」とは、龍がとぐろを巻いて天に昇ろうとする姿とされ、相国寺では「八方睨みの龍」と呼ばれ、堂内の何処からでも目が合い、堂内、中央付近で手を叩くと天井に反響してカラカラという音が返ってくるので、一名「美しい鳴き龍」としても有名で、春秋の特別拝観時には多くの拝観者で賑わいを見せています。

寺内には美しい庭園や歴史的な建築物があり、訪れる人々に禅寺の静寂さと美しさを楽しむ機会を提供しています。また禅の修行場としても利用され、多くの宗教行事や催物が行われ、観光客や檀信徒に開放されています。

更に、相国寺は日本の歴史においても重要な役割を果たしてきました。寺の歴史には多くの名僧が登場し、彼らの禅の教えや業績は日本の仏教と文化に大きな影響を与えました。その歴史的な重要性と禅宗の中心としての役割から日本国内外の仏教信者や研究者にも尊敬されています。

昨年の『京都仏教会会報』に掲載された有馬管長猊下の御挨拶文の中に、禅のお言葉「諸悪莫作　衆善奉行」についての説明文があり、それを拝借させて頂きます。

「諸悪莫作　衆善奉行」

唐の詩人白楽天が、ある時木の上で坐禅をしている道林禅師（鳥窠和尚と呼ばれている）に仏法の大意について尋ねました。鳥窠和尚は「諸悪莫作　衆善奉行」と答えました。意味は、悪いことをしないで善いことだけをしなさい。それを聞いた白楽天はがっかりしました。「そんなことは、三歳の子供でも知っています」と言いますと、鳥窠和尚は、「三歳の子供でも知っているが、八十の老翁でもなお実行しがたい」と答えました。

本年、齢八十を数える小生には、身に染みるものがあります。この話から私たちが学ぶことは、単純なこと、簡単なことが実は最も難しいことということです。先ず、自分の身辺、足元にあるもっとも優しい簡単なことからきっちりやることが大切です。それが出来ずにどうして難しいことが出来るのでしょうか。最も浅い日常的なことの中に、実は最も深い宗教的なものが隠されているのです。そのことを、私たち禅者は実践を通して知っているのであります。

本年こそは、戦争の終結と平和な日々が訪れることを、心より願っています。どうか皆様の益々の御活躍と健御勝、御多幸を祈念申し上げます。

コロナ禍を経て

福性寺住職　吉田厚司

人は昨日にこだわり、明日を夢見て、今日を忘れる、そんな言葉がございます。日々の暮らしの中で、あの時こうしておけば良かったのに、これからどうなってしまうのか、戻れない過去に後悔し、先の見えない未来に不安や期待を抱くよりも今、この瞬間、自分がするべき事を精一杯する事が大切であるという教えです。

私は普段、住職の傍ら、ある会社で正社員としても勤めさせていただいております。今回はコロナ禍の中、私が会社で経験し、大変感銘を受けた体験談を一人の従業員の立場から恥ずかしながら紹介させていただきたいと思います。

二〇一九年十二月初旬、最初の感染者が報告されてからわずか数か月の間に瞬く間に世界中に感染者が広がり世界中の日常を一変させた新型コロナウィルス、様々な方面に影響を及ぼし、突然世界が変わってしまった、その様な印象を受けたものでございます。感染拡大の影響により不況の波は世界中を襲い世界経済は戦後最悪の経済危機に直面、国内だけでも倒産した企業は約六五〇〇件、失業者は二〇〇万人以上にも遡ると言われています。

そんな不況の波は当社にも容赦なく押し寄せコロナ禍以前に比べると生産量が約六割程度まで減少、まさに危機的な状況に陥っておりました。出勤してもする仕事が少なくただ時間をもて遊ぶ日々、そんなある日、私はある営業担当の後輩社員に「今日も暇になりそうだな、」何気ない日常の会話をしたつもりでありましたが、その後輩社員からは思いもよらない返事が返ってきました、「暇な時ほど辛いです、当たり前の事が出来ません、これほどもどかしい事はないです。」と、

食品を扱う当社、メールやリモートだけではどうしても伝えきれない部分があります、最終的には得意先様に直接お会いし直接食べて頂く以外にその商品の良さを伝えるすべがないのです。一つの商品を作るのに何人もの社員が何日も時間を費やし、得意先様の要望に応える為に何度も試作を繰り返します。そうしてようやく完成した試作品が、移動制限の為にお会いすることすら叶わず試食していただく前にやむなく期限切れとなってしまったその試作品を、申し訳なさそうに悔しそうに手に取り眺めている後輩の姿を横目で見ながら私は今、この状況をどこか他人事の様にとらえている自分がいる事に心底恥ずかしい思いが致しました、この様な状況の中でも当社の為に一生懸命に励んでいるこの後輩に合わす顔がないのではないか、今私達がするべきことは何なのか、今出来る事を誰にどう思われようがとにかくやろう、そう話し合い励む事に致しました。「こんな時にそんな事をしなくても」批判的な意見を耳にすることもありましたが、「今しか出来ない事もある」各自で意見を出し合い、とにかく行動に移す事にしました。それが幸いしてか以前とは見違える程工場全体が綺麗になり、ミスが起こりにくい環境へと変化しただけではなく何よりもこの今の環境を維持していこうという意識の変化が皆に芽生えたのが何よりの収穫でした。規制が暖和され、少しずつではありま

すが仕事の量も増え始めた当社はようやく以前の活気を取り戻しつつあります。

コロナ禍を経た今、私達の日常は完全に元の状態に戻ったとは言いきれません、それでも言えることは、この世は無常であり常に変化しているということです。私達が今している事は一瞬にして過去になってしまいます。その過去は、どんなに抗ってみたところで取り返しがききません。やり直しのきかない過去にこだわるより、今ならどうにでもなります、今という二度と訪れる事のないこの一瞬を大切にし、今するべき事をする、その積み重ねが明日へ、そしてその先の未来へとつながってゆくのです。

参考文献『小さな悟り』 枡野俊明
三笠書房　知的生き方文庫

「ふるさととお寺のご縁をつむぐ」

感応寺住職　芝原祥三

「相国寺さんって、昔勤めていた会社の通勤の時にそこの前の道わたし毎日通ってましたよ」

「そう、そのお寺のご縁があったから、今日ここでご一緒することができたのですね」

法要後、精進料理のおときをご一緒しながら、順縁逆縁へだてない話は尽きることがありませんでした。

明治初めの廃仏毀釈によってすべての寺院が失われた旧薩摩藩領では、明治十一年に当時の荻野独園管長の命によって相国寺鹿児島別院（現在の南洲寺様）が開かれ、現在は相国寺派第六教区鹿児島宮崎の各寺院が法灯を守っております。私が住職を務めさせて頂いている感応寺が明治二年の廃寺後すぐに再興することができたのもご本山、そして地域の皆さんのご尽力があってこそですし、それから一五〇年余り、おかげさまでそのご縁が続く形で、全国各地にそのご子孫が移られても檀信徒として今もつながっておられます。特に関東地区は明治維新以降、役人や警察官をはじめとしてたくさんの薩摩人が上京した関係で多くの檀信徒がおられるのですが、当然の高齢化に加えてコロナ渦により、多くの方々と直接顔を合わせてお会いする機会が長く失われることとなりました。

そこで昨年夏ようやく、東京南青山にあります相国寺東京別院を会場とすることをご快諾頂きまして「第一回感応寺関東檀信徒の会」を執り行いました。お住いの檀信徒の方々、子供さん孫さんが関東に住んでいる方々に七月盆の法要を兼ねてお集まりいただくことをご案内したのですが、いかんせんどの程度皆さんが集まっていただけるかおそるおそるでしたが、普段は電話や手紙でしか拝見できなかった方々、そして「はじめまして」の方々も含めて五十名ほどの方にお越し頂けました。

「足が悪くて、鹿児島までは行くことができなかったが、娘につれて来てもらったら幼馴染の〇〇さんに偶然お会いすることができました」

「第１回感応寺関東檀信徒の会」の様子

東京別院山門

「ご本山の別院がビルが立ち並ぶ場所にあって、しかも自分の勤め先の会社のすぐ近くとは知らず、みんなでお伺いしました」

鹿児島との行き来が少なくなり、「先祖の眠るふるさとのお寺」に来られた経験がない方々も多くなりました。直接住職が伺わせて頂きお話をし、もちろんふるさとに残した土地やお墓など心配な部分を話し合ったり、お寺も知らなかった今の状況を共有して安心を得る時間にもなったのは言うまでもありません。「遠くの親戚より、近しいお寺さんですね」と笑って語る時間も取れました。

ふるさとは遠きにありておもうもの、でもそこには義務だけではなくて、自分のルーツを感じられるつながりや楽しみがあってこそ後世に引き継げるものであると思っております。

また住職としても自分たちが積極的に外に目を向け多様な人と関わる、受け入れる時間が取れることはある意味、ありがたいことでもあります。これからも一地方寺院としてできることを考えつつ、法灯をつなげる取り組みを行っていければと思っております。

第二十七回　相国会本部研修会　日程

10月12日（木）

13時　登山、諸説明（大書院）
13時30分　開講式（方丈）　柝五声支度・同連声出頭
①般若心経・消災呪・本尊回向・大悲呪・開山回向
②有馬管長猊下よりご垂訓
③記念撮影
④茶礼
⑤四弘誓願文
研修生退席
14時15分　坐禅（大書院　30分×2回　休憩有り）
白隠禅師坐禅和讃
15時30分　承天閣美術館　二階講堂
『若沖と応挙』作品解説・館内見学
本多 潤子学芸員
17時　本山出発　花園会館（右京区）へ移動
18時　薬石（夕食懇親会）右京区内にて精進料理
花園会館に宿泊

10月13日（金）

7時　開静　洗顔、寝具片付け等
7時30分　朝のイス坐禅　20分　白隠禅師坐禅和讃
9時　朝食
9時15分　花園会館　出発
10時30分　龍安寺特別拝観　仏殿にて般若心経
鹿苑寺（金閣寺）特別参拝
閉講式（方丈）
①般若心経・開山回向
②鹿苑寺執事長挨拶
③修了証授与（代表者のみ）
教学部長挨拶
④四弘誓願文
境内特別拝観
西山、庭園鑑賞、売店
斎座（昼食）　北区内にて
京都駅にて一次解散・本山で最終解散

第二十七回　相国会本部研修会　参加者（教区順・敬称略）

教区	住所	分会名（菩提寺）	参加者
第一教区	京都市	相国寺（相国会会長）	松井八束穂
第二教区	京都市	長遠寺	山本　英生
第二教区	亀岡市	大雲寺	笹原　法明
第二教区	京都市	桂徳院	山本　壽典
第三教区	丹波市	少林寺	長澤　秀明
第三教区	丹波市	少林寺	岸部　優男
第四教区	高浜町	眞乗寺	今井　満
第四教区	高浜町	眞乗寺	今井　晴美
第五教区	出雲市	保寿寺	錦織　一男
第五教区	出雲市	西光寺	瀬﨑　正雄
第五教区	出雲市	西光寺	大森志沿夫
第五教区	出雲市	東光寺	勝部　徹

顧問・参加和尚

第二教区　大應寺住職（第二教区宗務支所長）　久山　弘祐
竹林寺住職　牛江　宗道

第二十七回　相国会本部研修会に参加して

第三教区　少林寺分会　岸部優男

まず、開講式には有馬管長猊下がお出ましになられ、昨年九十歳になられたとのことですが、お元気なお声でご垂訓を賜り、感激でございました。

さて、本部研修会は平成三十年十一月に開催の後、コロナ禍の為に五年ぶりに行われました。しかし、今回は開山忌の相国会団体参拝が翌週に控えており、参加者が少なく残念に思いました。幸い私は、第二十五回、二十六回、今回と三度の研修会に参加いたしました。

開講式に次いでの坐禅は、足腰が不自由な為、椅子坐禅とさせていただきましたが、なかなか無心の心境にはなれませんでした。承天閣美術館では、本多学芸員より『若冲と応挙』展の解説を頂き、美術品を拝見いたしました。この承天閣美術館は昭和五十九年に建設され、鹿苑寺や慈照寺の美術品や伊藤若冲の水墨画などが収蔵されており、それらが展示されていました。また薬石（夕食）では、阿じろ本山店で薄味の美味しい精進料理に御酒を頂戴し、初日を終えました。

二日目は、早朝坐禅の後、龍安寺と鹿苑寺を特別拝観させていただきました。特に両寺院の本堂や方丈で「般若心経」を声高らかにお唱え出来たことが心に残っております。龍安寺では石庭が遠近法で作られていること、どの角度から見ても十五個の庭石がすべて見えないことを伺い、水戸光圀公が寄進された「吾唯足知」のつくばいを見学させていただくことが出来ました。

また鹿苑寺ではウィークデーにも関わらず、修学旅行生や外国人観光客などで境内は溢れんばかりの景観でした。特に西山庭園より池の水に映る金閣舎利殿は見事で、秋晴れのよい天候に映える鳳凰がきらきらと輝いていました。日ごろ個人的には拝観できないところを見学し、研修会ならではと感謝いたしております。

次回は参加者が増え、親睦を通じてそれぞれの諸課題の意見交換が有ることを期待し、今回お導き下さった本山教学部様をはじめ、随行いただいた竹林寺様、大應寺様には大変お世話になり、御礼申し上げます。

最後に大本山相国寺様、本派の各寺院と相国会の益々の発展を祈念しつつ、拙い文ではありますが研修会参加の所感といたします。

第二十七回　相国会本部研修会に参加して

第五教区　保寿寺分会　錦織一男

この度、長年の念願であった本山での研修、コロナ禍で四年間実施されませんでしたので、心待ちにしていました。寺の住職より研修会参加の打診があり、早々の参加のお願いをしました。本山研修参加の為の御供を考え、私は長年写経（般若心経）をしておりましたので、その一部である千枚を持って朝七時に自宅を立ち、電車を利用して午後一時に相国寺に登山致しました。

江上教学部長より大書院にて諸般の説明を受け、早々に方丈で開講式があり全研修生が読経をして、有馬管長猊下のご垂訓を受け研修が始まりました。大書院に戻り坐禅、読経をし、続いて承天閣美術館を見学しました。そして、本山を出発し花園会館にて宿泊。夕食は、阿じろ本山店で精進料理をご馳走にな

り、初日の研修を終えました。

二日目は、花園会館の仏間にて朝の坐禅、坐禅和讃を読経し、朝食後に花園会館を出発し龍安寺、鹿苑寺（金閣寺）特別参拝を行いました。鹿苑寺執事長列席のもと方丈で閉講式行い、読経、境内拝観の後、全員でしょうざんにて昼食を囲み、研修生の各菩提寺の檀家の近況等意見交換を行い、楽しい研修会を終えました。

研修を通じての感想を申しますと、先ず持参した「般若心経」が約六キロだったので大変重く感じ、本山登山時には汗びっしょりで、受付をするのがやっとでした。

方丈にて有馬管長猊下と共に読経し、管長のご垂訓を受けて気持ちが高揚してきました。相国寺には開山忌法要に数回参拝させて頂いていますので、様子は程々周知していましたが、やはり方丈や大書院での読経、坐禅等は落ち着き、安心感があり、菩提寺の本堂とは違いがありました。方丈のふすま絵を拝見した感想は、毛筆（油絵との違い）での描きで、繊細緻密な画法、相当の根気、心構えが必要（特に文字絵の「法華観音」）ではないかと驚きました。

龍安寺では、石庭は大変素晴らしかったが、一般には入堂出来ない仏殿拝観、読経焼香をさせて頂いたことが印象に残りました。鹿苑寺に於いては、一般入場禁止の鏡湖池南側からの見学、正面からの舎利殿、光り輝く鳳凰が一層目に染みました。

研修会では法話（教義）等が少なく、禅の教えについて浅学の為良くはわかりませんが、私としては動き（坐禅、読経）を得た研修で気持ちよく受け入れる事が出来ました。

最後になりますが、本研修会を引率、ご指導を承りました江上教学部長、須賀部員の両師には格別のご配慮頂き、誠にありがとうございました。

合掌

「新年にむけて」

演劇塾 長田学舎 斉藤浩未

いらっしゃいませ。順番にお伺いしますので、少々お待ちくださいませ。
いらっしゃいませ――――
お待たせいたしました――――

コロナが五類感染症に位置付けられ、百貨店や量販店に化粧品を買いに来られるお客様が随分増えて忙しくなってきました。
おさだ塾の活動の傍ら勤めて十五年目の会社です。
「これまで好きな事だけをして自由に生きてきました」
十年の社会人ブランクがあるにもかかわらず、面接時にこの様に答えた私を雇って下さり本当に感謝しかありません。
その、「これまで」というのはアルバイトとおさだ塾での演劇活動の日々、そしてとある世界に少しだけ足を踏み入れた事――――

おさだ塾のお稽古がない時は、大阪ではちょっと有名なビアホールでアルバイトをしていました。
名物の鶏の唐揚げが大人気で、老若男女幅広い年代のお客様に愛されているお店でした。
白髪交じりの豊かな髭を蓄え、全身真っ黒なコーディネートにカウボーイハット、履物は決まってゲタ――いつ見てもこのように個性的な風貌のお客様がいました。

何とも怪しい…、関わらないのが一番！私から話かけることはしませんでした。

ところがある日…
「あんた、ここのアルバイト以外何かしてるんか？暇か？」
と、話かけられてしまった。
「え？何でですか？暇と違いますよ」
「ほな、何してんねや？どうせ暇やろ」
「暇やないですって！演劇活動してるんでお稽古で忙しいんです！」
「そうか!!それやったら絶対勉強になるから来い！」
ゲタのおっちゃんはそう言って半ば強引に私をとある場所に連れて行きました。
そこにはタキシード姿に蝶ネクタイの男性達と、煌びやかなドレスを身に纏った女性達が集っていました。
ある方は、ふっと息を吹きかけた指先から色とりどりの花を咲かせ、またある方は、一枚のハンカチの中から何羽もの鳩を出し、またある方は妖艶に舞いながら大きな水晶玉を宙に浮かせるのでした。
美しい所作からありえない事が次々と目の前で起こりました。
「えぇー。何でぇ…」

不思議に魅了され、見ている人を驚かせてそして喜んでもらいたい。
そんな素敵な想いを持つ人達が集まるマジックの教室に私はいました。

「あんたに手伝ってほしい事があるんや」ゲタのおっちゃんは言いました。
この教室では定期的にマジックの公演会を行なっており、次の公演の演目でアシスタントが必要だったのでした。
そして驚くことに、ゲタのおっちゃんは演者でもありながら、マジックを人に教える立場でもある方でした。
「人生、何でも勉強になるんや。あんたも舞台やってんねんやったらわかるやろ」

その日からゲタのおっちゃんは私の先生になりました。
アシスタントといっても、まあ、私のやる事なんて、先生の催眠術にかかるだけ。
あとは先生が、私を宙に浮かしたり、切り刻んだり好き放題やるだけですわ。
催眠術がとけて、目が覚めたら拍手喝采。
どんな舞台でもお客様の笑顔はやっぱり嬉しい！
私は眠っていただけですが…。

先生はマジックをどのように工夫すればより不思議になるか、楽しくなるかを常に考えておられました。
だから、先生がされるマジックは不思議に加えてユーモアで満ち溢れていました。
皆さんがよくご存知の剣刺しのマジック。
人が箱に入り、あちらこちらから剣を刺して、最後は無事に人が出てくるというやつです。
これも先生にかかると――私が綺麗なドレスを着てダンボールに入り、先生がめちゃくちゃにそのダンボールに剣を刺します。そのダンボールをくるりと一周まわしてお客様に見せてから、剣を抜いていきます。剣を全部抜いたら、ボン！という大きな音と共にダンボールから煙が舞い上がり、頭と腕に包帯を巻いたボロボロのドレス姿の私が出てくるというマジック。
しかもその演目のタイトルは「タスケテチョーダイ！」
うふっ、先生最高！

「人生、何でも勉強になるんや」
先生がいつも仰る言葉。
少しでも多くの舞台に立つ事が私の演劇活動の為になると、その後も幾つものマジックの舞台に立たせて下さいました。
毎回、驚きと笑いの連続でした。

楽しい演目の内容をここで全てお伝え出来ないのが残念です！

時はあっという間に流れ、その頃とも環境が随分変わりました。

コロナは仕事と演劇活動に大きく影響しました。

二〇二二年は三年ぶりに「町かどの藝能」の自主公演ができる事になりましたが、私自身がお稽古も公演も参加できない状態になりました。

生まれつき身体は結構丈夫で、大きな病気もした事がなかったのにまさかの展開。

幸い命に別状はありませんでしたが、この一年間に全身麻酔を必要とする手術を三回受ける事になりました。

覚悟していたより身体的にも精神的にも大きなダメージでした。

若い頃とは違って体力はあっという間に落ちるし、それでいてなかなか回復してくれない。三回目の手術が終わった後は疲れ果て、何事に対しても気力を失っていました。

二〇二三年は健康第一！と意気込んだ矢先にインフルエンザに罹り、流石の私も、思わず呟いていました――もう勘弁して！

しかし時間とは有難いものです。一日一日過ごすうちに少しずつですが良い方向へ進み、

一年かけてようやく体力は戻り、それと共に気持ちも前向きになってきました。

仕事のやりがいも取り戻してきました。

気がつけば朝晩が過ごしやすくなり、時折吹く風がひんやりとしてきました。

今年は随分長い夏だったなとふと空を見上げると、空はすっかり秋らしい青色になっていました。

「いつまでグズグスしてるんや、しっかりせえ！」

空から先生の声がしました。

健康である事がこんなにも有難い事なのだと痛感した二年間でした。

お待たせしました。

二〇二三年が終わる頃には、充電が完了していそうです。

来年はどんな年になるのかな。いいえ、自分の思い通りの年にしよう。

長く立ち止まっていた分、二〇二四年はこれまでにないくらい充実した年にしたい。

身体に気をつけながら仕事も演劇も一生懸命頑張ります。

え？恋愛はどうですかって？

おっと。

それは……ノーコメント！

本山だより（令和五年六月～十一月分）

○第十一回　特別住職学布教研修会

六月十九日から二十八日まで、天龍寺（京都市右京区）に於いて臨済宗連合各派布教団本部主催の「特別住職学布教研修会」が開催された。本派からは阪口大航師（第二教区無礙光院副住職）が受講した。また開講式には佐分宗務総長が、開閉講式には江上教学部長が出席した。

○東京別院有馬管長ビデオ提唱

六月二十九日、相国寺東京別院において小林老大師、佐分宗務総長、澤慈照寺執事長、山木鹿苑寺執事長、久山財務部長、江上教学部長、平塚財務・庶務部員、慈雲院中山副住職、須賀教学・庶務部員、東京別院看護の中村夫妻ほか、長らく有馬管長の坐禅会に参加されている在家者が列席し、本尊、開山諷経に続いて、ビデオによる管長の『証道歌』提唱を拝聴した。

小林老大師を導師に諷経する僧侶、関係者

有馬管長による『証道歌』ビデオ提唱を拝聴する

○布教団本部理事会

七月三日、天龍寺に於いて臨済宗連合各派布教団本部理事会が行われ、佐分宗務総長と江上教学部長が出席した。

○教学部長会議

七月二十一日、花園大学に於いて教学部長会議が行われ、江上教学部長が出席。二月に開催する「臨黄教化研究会」について意見交換が行われた。

○令和五年暁天坐禅会

八月二日、三日に暁天坐禅会を四年ぶりに開催した。ウイルス感染症対策として、今回は有馬管長の法話や講師を迎えての講演、作法通りにおかゆを食す粥座は休止し、坐禅のみを行ったが、連日多数の方が参加された。江上教学部長、荒木参務、平塚財務・庶務部員、須賀教学・庶務部員が受付、巡警、諸説

再開した暁天坐禅会

明などを担当した。
本年は「暁天講座」として坐禅、法話・講演、ならびに粥座（お粥）も再開の予定である。

○同宗連第一連絡会
九月十一日、真言宗智山派智積院会館（京都市東山区）に於いて令和五年度第二回同宗連第一連絡会が開催され、本派からは江上教学部長と須賀教学・庶務部員が参加した。常任会議の開催報告や各教団の情報交換等が終了後、日本基督教団東加古川教会牧師の森なお師により「誰もが自分らしく生きるために～性という垣根を越えて～」というテーマで、LGBTQについての研修会が行われた。

○令和五年度秋の特別拝観
九月二十六日より令和五年度の秋の特別拝観を行い、法堂、方丈、開山堂が十二月十日まで公開された。

令和六年春の特別拝観は、三月二十三日から六月二日まで、公開場所は法堂、方丈、開山堂の予定である。

○普明忌
相国寺第二世普明国師の毎歳忌法要が十月三日（宿忌）、四日（半斎）の両日にわたり厳修された。
両日とも法堂での諷経の後、大通院昭堂（相国僧堂内）にて諷経がなされた。

○達磨忌
十月五日、達磨忌法要が執り行われ、法堂での諷経がなされた。
達磨忌は禅宗の始祖である達磨大師の法要であり、相国寺でも毎年執り行われている。

○臨黄合議所移動理事会（総会）
十月十日、永源寺（滋賀県八日市市）において臨済宗黄檗宗合議所の総会が開催され、臨済宗、黄檗宗十五本山と禅文化研究所事務局の担当者が参集した。相国寺派からは久山財務部長、江上教学部長の二名が出席した。
本堂で各山開山諷経並びに道前管長猊下のご垂訓を賜り、引き続き行われた総長会には久山財務部長が総長代理で出席し、臨黄ネットのリニューアル、「宗勢調査」報告などを、江上部長が出席した教学部長会では、令和六年二月一日、二日に開催する第十八回「臨黄教化研究会」についてそれぞれ協議がなされた。その後、総会で各部会の報告があり終了した。

○令和五年「相国会本部研修会」五年ぶりに開催
十月十二日、十三日、第二十七回「相国会本部研修会」が開催された。
今回は、感染症対策として参加人数制限をし、また宿泊は通常の相国寺内ではなく、花園会館（京都市右京区）を利用した。相国会松井八束穂会長をはじめ、第一教区から第五教区の各寺院（相国会分会）より十二名の会員と第二教区宗務支所長の久山弘祐師（大應寺住職）、同教区牛江宗道師（竹林寺住職）の計十四名が参加した。
初日は江上教学部長からの諸説明に続いて、方丈に於いて有馬管長を導師に開講式を行い一同で諷経の後、管長よりご垂訓を賜り、研修に入った。坐禅研修は須賀教学部員が、承天閣美術館での『若冲と応挙』展作品解説は本多学芸員がそれぞれ担当した。花園会館移動後は精進料理「阿じろ」にて薬石（夕食）を頂戴した。
二日目は、花園会館で朝のイス坐禅、粥座（朝食）後、妙心寺派塔頭の龍安寺（京都市右京区）を訪問し、方丈拝観の後、仏殿を特別拝観させていただき、一同で諷経をした。続いて山外塔頭の鹿苑寺（金閣寺・京都市北区）に移動し、方丈にて研修会の閉講式を行い、山木鹿苑寺執事長より挨拶を頂き、寺務

長の案内で境内特別拝観をした。

最後に、しょうざん（北区）で斎座（昼食）を頂きながら、各教区、各寺院の現状や課題、あるいは感想などを話しつつ懇親を深め、無事散会となった。

（巻頭カラー、28ページ参照）

会員より般若心経の写経が千巻納経された

承天閣美術館での座学と企画展鑑賞

宿泊先でもイス坐禅を行う

○開山忌

開山夢窓国師の毎歳忌法要が、十月二十日（宿忌）、二十一日（半斎）の両日にわたり厳修された。今回よりコロナ禍以前の形式に戻し、臨黄各山、天龍寺一山、縁故他宗派、本派近末寺院の各尊宿にもご出頭を、第四教区若狭相国会、第五教区出雲相国会より合わせて一三八名の団体参拝、法要参加をいただいた。

二十一日は、九時より法堂において有馬管長に代わり小林老大師導師のもと献粥諷経がはじまり、諸堂焼香、奠供十八拝が行われ、出班焼香に引き続き楞厳呪行導が厳修された。続いて、開山堂にて諷経がなされた。

開山忌法要で香語を唱える小林老大師

法要終わりに行う相国会会員による諷経

また、法堂では最後に総代、相国会の参列者と共に「般若心経」「白隠禅師坐禅和讃」の諷誦が復活し、参列者の声が堂内に響き渡った。

小林老大師香語は左の如し。

開山毎歳忌香語

勘破高峰老古錐　高峰の老古錐を勘破して、
閑休空手迹霊亀　閑休空手にして霊亀迹。
七朝咸布普濟政　七朝咸普濟の政を布く。
没渉聯芳無止時　没渉聯芳止の時は無し。

玄徳九拜

定中昭鑑

○令和五年「相国寺派寺庭婦人研修会」四年ぶりに開催

十月二十五日、二十六日、第四十回「寺庭婦人研修会」が開催された。今回は第一教区から第六教区の各寺院より十六名が参加した。

初日は諸説明に続いて、方丈に於いて佐分総長を導師に開講式を行い、一同で諷経の後、法堂、方丈、開山堂の拝観、続いて坐禅研修を行った。承天閣美術館では本多学芸員より『若冲と応挙』展作品解説を受けた後、館内を観覧した。

二日目朝の修了式では、有馬管長ご導師のもと諷経、ならびにご垂訓を賜り、本山を出発。香老舗「松栄堂」にて「匂い香づくり」のワークショップに参加し、工場では線香の製造過程をご案内いただいた。昼食後は、清水寺（京都市東山区）へ参拝し、森清顕宗務長より寺の歴史や観音信仰について歴史解説を、また境内を特別にご案内いただいた後、国宝の本堂内で一同諷経をさせていただいた。秋の拝観シーズン中で境内、門前は大変な賑わいで、国内外の拝観者が集中しすぎるオーバーツーリズムの実態を目の当たりにする機会ともなった。

◇参加者名簿（教区・台番順）

第一教区　澤　万里子・澤　洋子（林光院）
山木佐恵子・山木喜要子（普廣院）
有浦まいかエリサ（長得院）
草場容子・中山恭代（慈雲院）
佐分厚子（豊光寺）

第四教区　平塚久恵・平塚夏美（養源院）
加藤祐生（南陽寺）
鈴木笑子（潮音院）
田中温子（円福寺）

有馬管長ご垂訓

五十嵐多賀子（善應寺）
第六教区　矢野志保（南洲寺）
松本亜弥（光明寺）
（巻末カラー94ページ参照）

諷経する研修生

坐禅で整心

有馬管長より修了証が授与された

○眞如寺大祥忌法要

十一月十八日、山外塔頭眞如寺（江上正道住職）において、先代住職江上泰山和尚の大祥忌（三回忌）が厳修された。当日は、同寺法堂「大雄殿」にて大通院の小林玄徳老大師、林光院閑栖・国泰寺派管長の澤大道老大師、佐分宗務総長他一山尊宿、法類寺院、縁故寺院のご出頭並びにご加担を受け、役員、親族が列席するなか、住職導師のもと楞厳呪が諷誦された。

また前日午後の宿忌では、勧請開基無外如大尼の毎歳忌の諷経も合わせて行われた。

法堂へ入堂する僧侶

先住泰山和尚大祥忌法要

撮影：柴田明蘭

坐禅会のご案内

本山維摩会

◆毎月第二・第四日曜日開催

（※一月第二、八月第二・第四、十二月第四日曜日は休会です）

※行事等の為、予告なく休会することがあります。

相国寺の維摩会は、明治時代に当時の第一二六世荻野独園住職が、主に在家を対象として始めた坐禅会であり、以来歴代の相国寺住職が指導にあたってきました。第二次大戦中より戦後昭和三十八年頃までは、相国寺塔頭大光明寺で開催され、それ以降は再び本山での開催となり、現在に至っています。

維摩会の名称の由来は、経典『維摩経』の主人公で、在家でありながら釈迦の弟子となった古代インドの維摩居士からつけられたものです。

会　場：相国寺　本山大書院

時　間：午前九時より十一時迄

内　容：坐禅（九時～十時半）

法話（十時半～十一時）

注意点：当日は八時五十分までに必ずお集まり下さい。十人以上で参加の際は、前日までに電話連絡をお願い致します。

（電話〇七五―二三一―〇三〇一）

先着順に受付し、満員の場合はやむなくお断りする場合もございますので、あらかじめご了承下さい。

威　儀：服装は楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。

東京維摩会　再開いたしました

◆開催予定日（八月、十二月は休会です）

令和六年一月十三日（土）、二月十日（土）、三月九日（土）四月十三日（土）

五月十一日（土）、六月八日（土）、七月十三日（土）

九月十四日（土）、十月十二日（土）、十一月九日（土）

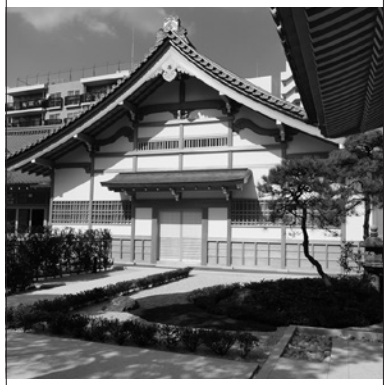
会　場：相国寺東京別院　方丈・客殿

時　間：午前十時半より十二時迄

内　容：坐禅、『証道歌』講話、茶礼

威　儀：服装は楽でゆったりとしたものが望ましい。肌の露出が多い服やフード付きの上着、スカート、硬い素材（デニムなど）は避けて下さい。（更衣室あり）

※最新の情報は、相国寺派ホームページをご覧いただくか、相国寺東京別院（電話〇三―三四〇〇―五八五八）までお問い合わせ下さい。



東京維摩会会場　方丈・客殿　玄関

TEL 03-3400-5858

会　　場：方丈・客殿

〒107-0062　東京都港区南青山6丁目13-12

教区だより

第一教区

○大光明寺檀信徒総供養、普賢菩薩画像開眼法要

十月十四日、大光明寺（矢野謙堂住職）において護持会と静原講中各家の先祖総供養が営まれた。同寺では毎年秋に法要を行っていたがコロナ禍により、三年間中止されていた。四年振りの開催に百二十名を超える檀信徒が参集し、住職はじめ法類、縁故寺院で厳修された。

その後、有馬管長猊下もご出頭の中、中国人の画家王夢石氏寄贈の「普賢菩薩」画像（東京国立博物館蔵の国宝「普賢菩薩」画像の精密模写）の開眼法要が行われ、元慈照寺花方珠寶氏に依る献花の後、全員で太鼓に合わせて般若心経、普賢菩薩真言を唱えた。

法要後は住職より王氏に感謝状が授与され、管長挨拶の後、住職が謝辞を述べた。

管長が見守る中「普賢菩薩」像に献花　撮影：柴田明蘭

第二教区

○相国会第二教区支部総会

七月一日、無礙光院（京都市左京区高野）において相国会第二教区支部総会が二十七名の参加を得て開催された。

はじめに無礙光院の阪口慈航住職導師のもと、全員で般若心経を読誦した。次に総会に入り波多野外茂治支部長から前年度の事業報告がなされ、今後の活動等について協議した。また今年度より新支部長に山本英生氏が選任された。

総会開催にあたり、無礙光院御住職様、副住職様、寺庭様及び役員の方々にご尽力いただき深く感謝申し上げます。

○是心寺大祥忌法要

十月七日、是心寺（京都市左京区）において、先代住職長尾守峰和尚の大祥忌（三回忌）が、是心寺本堂に於いて営まれた。当日は天候にも恵まれ、相国寺第一教区寺院、第二教区宗務支所長、法類縁故寺院が出頭するなか、和田賢明住職を導師に厳修され、出頭寺院、ご遺族、総代と共に長尾守峰和尚の遺徳を偲んだ。

第三教区

○法雲寺小祥忌法要

七月二十七日、法雲寺（兵庫県赤穂郡上郡町苔縄・江上正道兼務住職）において、先代住職大塚月潭和尚の小祥忌が厳修された。当日は大変厳しい暑さの中、大塚師法縁の松蔭寺宮本圓明老大師はじめ臨済僧堂会下諸老宿、第四教区南陽寺加藤幹人師、法類を代表して第一教区瑞春院副住職須賀集信師、地元苔縄自治会会長ほか役員、檀家各位に参集いただいた。本堂で江上住職を導師に本尊、開山、開基諷経に続き、小祥忌諷経をした後、生前大塚師が境内に整備した観世音菩薩の供養墓に納骨し諷経焼香をした。

法要後には、上郡町役場地域振興課、地域おこし協力隊との会合を行い、大塚師が建立した坐禅堂での坐禅研修をはじめ、境内の活用方についても意見交換をした。当寺開基赤松円心公をはじめとする赤松家の史跡巡りは、以前より町内地域活性化の軸の一つになっ

相国会第二教区支部総会

是心寺先住長尾守峰和尚頂相　自画賛

諷経後に拝をする出頭僧侶

小祥忌、納骨に参列した一同

ており、千種川沿いの国道や智頭急行線苔縄駅から目を引く集落高台の坐禅堂と境内に生える県指定の天然記念物「ビャクシン」や「イチョウ」の巨木が共に地域行事の役に立てば良いと考えている。

さらに、今後は臨済宗に限らず宗門、仏教界を始め広く一般に坐禅堂の活用を広報し、住職研修会などで利用して頂く機会を作り、地方の集落における寺の維持管理や布教活用方法の一モデルケースとなるような模索をしてまいりたい。

【坐禅堂の活用に関する
お問い合わせ】
相国寺派宗務本所内
教学部 担当 江上まで
電話 075-231-0301
E-mail：kyogaku@shokoku-ji.jp

大塚前住職が平成19年に建立した坐禅堂

20人以上が座れる坐禅堂内部

第四教区

○若狭相国会　役員会

六月五日、眞乗寺に於いて役員会を開催した。相国会本部役員会の報告、相国寺観音懺法会先祖供養伊藤若冲「動植綵絵」鑑賞の日程について検討する。

○若狭相国会　本山団体参拝

六月十三日、相国寺本山に於いて、境内墓地にある伊藤若冲墓をお参りし、矢野謙堂師（大光明寺住職）より説明をしていただいた。引き続き、方丈にて相国寺観音懺法会先祖供養、伊藤若冲「動植綵絵」を鑑賞し、江上教学部長より案内を受けた。最後に、承天閣美術館で開催中の「女性と仏教」展を本多学芸員の解説により見学させていただいた。教区部内の和尚、檀信徒の皆さんが多数出席した。

矢野師案内のもと伊藤若冲のお墓をお参りする一同

○宗務支所　支所会

七月十日、眞乗寺に於いて支所会を開催した。お盆の日程調整、本山開山忌団参について協議した。

○宗務支所　支所会

九月二十五日、眞乗寺に於いて支所会を開催した。開山忌団参の参加人数及び行程について協議した。

○相国寺開山忌　団体参拝

十月二十一日、教区和尚ならびに檀信徒合計一〇五名、大型バス三台で、相国寺本山を団体参拝し、法要に参列した。檀信徒の法要参列は、コロナ禍中は休止していたので、四年ぶりの事であった。法要後、嵐山・天龍寺を参拝した。

方丈で「動植綵絵」の見学

承天閣美術館講堂での様子

第五教区

○出雲相国会理事会

年度が改まり出雲相国会では、新たに選出された三役による体制がスタート致しました。

六月九日、午前九時より、次期理事会に向け急ぎ議案を取りまとめ、富田寺で第一回出雲相国会理事会を開催致しました。事業計画、中でも「坐禅会」「本山相国寺団体参拝」について協議し、数年ぶりに開催する方向で進めることとなりました。

○出雲相国会理事会

七月二十三日、富田寺で理事会を開催致しました。坐禅会を三日後に控え、最終打ち合わせを行いました。いつもは「親子坐禅会」と題して募集をかけていましたが、この度は対象者を絞らず「坐禅会」とし、誰でも参加しやすいよう周知に心がけました。

第五教区理事会

ラジオ体操の様子

○坐禅会

七月二十六日、午前六時より富田寺本堂前庭でラジオ体操を最初に、続いて本堂に上がり坐禅を行いました。

○出雲相国会三役会

八月十九日、富田寺で開催致しました。この会議では、「本山団体参拝」について協議致しました。

○雲州一派第一回住職会

十月十日、富田寺書院で、雲州一派開山忌法要前に行いました。この会議では、支所長より令和五年度本山団体参拝、令和六年春の巡教、島根県仏教会などについてご報告を致しました。

○雲州一派開山和尚法要

十月十日、第一回住職会を終えてから開催致しました。開山忌法要は昨年同様、第五教区各ご寺院様、出雲相国会理事様、富田寺理事様の二十名ほどの参加で、経前茶礼に始まりその後、富田寺本堂で九拝式にて営みました。雲州一派開山塔参拝は富田寺本堂西側室内より礼拝棚を設けて塔参致しました。

○本山団体参拝

十月二十日～二十一日（一泊二日）の行程で行いました。一日目の出雲出発時は、天候がよくなく時折激しい雨もありましたが、往路でのサービスエリア休憩、金閣寺拝観に支障をきたすほどではありませんでした。

二日目は少し肌寒さを感じる秋らしい天候のなかホテルを出発し、午前十時より営まれる本山開山忌に参列致しました。復路では、休憩をはさみつつ土産物店にたちよりほぼ定刻通り無事に帰ることができました。

ラジオ体操に次いで行われた坐禅会

第五教区住職会

雲州一派開山忌総茶礼

雲州一派開山忌

第六教区

○良福寺斎会

十一月七日、良福寺（近藤永進住職・鹿児島県いちき串木野市）に於いて、近藤義徳和尚の五十回忌の法要が行われた。

午前十一時より、住職を導師に教区寺院が出頭し、親族、総代、檀信徒出席の中、半斎法要（楞厳呪行導）、墓参諷経がさわやかな秋空のもと厳修された。

檀信徒列席のもと行われた法要

義徳和尚筆「達磨図」

墓参諷経の様子

令和五年度（雪安居）相国僧堂 在錫者名簿

京都（相国）大通院徒　尾崎宗忍
東京（建長）東禅寺徒　滝本駿太
京都（相国）大通院徒　長尾謙伸
京都（相国）大通院徒　日比野宗訓

教化活動委員会活動報告

教化活動委員会委員長　佐分宗順

研修会

【現代問題研究】

令和五年度の現代問題研修会は、京都仏教会と共同研究といたしました。京都仏教会「宗教と社会研究実践センター」は、令和五年度の研究テーマである旧統一教会問題に関連して成立した「不当寄付勧誘防止法」とそれに付随する宗教界全体に関わる諸問題について取り上げ、創価大学「東洋哲学研究所」と二回にわたり研究会を開催しました。

研究会の詳細は次の通りです。

《第一回》令和五年（二〇二三）五月二十三日（火）東京創価大学 東洋哲学研究所において開催

（1）「寄附新法の問題点」
発表者　京都仏教会宗教と社会研究実践センター所長　櫻井圀郎

（2）「マインドコントロールについて」
発表者　東洋哲学研究所委嘱研究員　本村　亮

（3）「宗教二世問題について」
発表者　東洋哲学研究所委嘱研究員　小松健治

《第二回》令和五年（二〇二三）十月三十日（月）相国寺承天閣美術館講堂において開催

「宗教法人に対する法人税課税のゆくえ―「公益」による個別審査論の問題点」

発表者　京都仏教会宗教と社会研究実践センター主任研究員　田中　治

参加者

京都仏教会宗教と社会研究実践センター

櫻井圀郎　所長（宗教法および宗教経営研究所所長教授）

田中　滋　主任研究員（龍谷大学名誉教授）

田中　治　主任研究員（大阪府立大学名誉教授）

橋口　玲　研究員（弁護士、京都仏教会、相国寺顧問弁護士）

佐分宗順　運営委員（臨済宗相国寺派 宗務総長・京都仏教会常務理事）

横江桃国　運営委員（臨済宗妙心寺派 養徳院住職・京都仏教会理事）

東京創価大学 東洋哲学研究所

桐ヶ谷　章　所長（創価大学名誉教授）

大西克明　研究員（創価大学大学院准教授）

平良　直　研究員（倫理研究所専門研究員）

上田宏和　委嘱研究員（創価大学講師）

小松健治　委嘱研究員（弁護士）

本村　亮　委嘱研究員（弁護士）

小関博文　事務局長

蔦木栄一　研究事業部副部長（委嘱研究員）

【出版予定】

今年度の京都仏教会との研究会の記録（前記の二回の研究会）は、令和六年（二〇二四）三月頃研究冊子として刊行予定です。

本研究冊子は基調発題と質疑応答の収録・資料集をまとめ編集したものです。

【相国寺研究】

今年度の研修会の予定はありません。

【出版物のご紹介】

『相国寺史』第二巻　資料編中世二

相国寺史編纂委員会編　原田正俊・伊藤真昭監修

二〇二三年一月三一日発行

発行所　法蔵館　定価九〇〇〇円＋税

内容　応仁元年（一四六七）～永禄十年（一五六七）の史料を編年体にまとめて掲載

『相国寺史』をお求めの際は、お近くの書店もしくは法蔵館へお問い合わせください。

●教化活動研修会　『講義録』・『相国寺研究』（近年発行のバックナンバー）

『相国寺研究』十三

『室町・戦国時代の相国寺領荘園』中井裕子著

相国寺教化活動委員会　二〇二三年七月発行

目次

第一章　相国寺領荘園の形成―足利義満期を中心に―

第二章　相国寺領荘園の運営実態について

第三章　相国寺塔頭の荘園―普広院領を中心に―

第四章　相国寺領荘園の衰退から太閤検地まで

過去に発行した各講座および研修会の『講義録』をご希望の方は、一冊につき手数料一千円を添え、左記の相国寺派宗務本所内教化活動委員会宛にお申し込みください。

各講座の参加申し込みや既刊の『講義録』リストは、相国寺派ホームページの「資料室」・「書籍案内」をご覧ください。

◆**申込先**　相国寺教化活動委員会

〒六〇二―〇八九八　京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一

電話　〇七五-二三一-〇三〇一　ＦＡＸ　〇七五-二一二-三五九一

ホームページ（https://www.shokoku-ji.jp）

相国寺史編纂室だより ―「差定」から見る大法要を支えた人々―

禅宗寺院に所蔵される古文書の中には、「差定」という表題を持つものがあります。開山忌のような多数の参列者を招待する大法要においては、接待や配膳などの役を僧侶・在家を問わず寺に関係する全員が分担して果たす必要がありますが、その役の分担を示したものが「差定」です。現在の相国寺でも、十月二十一日に行われる開山忌の際に同様の書式のものが庫裡の廊下に掲示されます。今回は、嘉永三年（一八五〇）三月に実施された開山国師五〇〇年遠忌のものと思われる「差定」の内容から、江戸時代の大法要を支えた人々について考えてみたいと思います。

この「差定」は、長さ約七メートルに及ぶものであり、六七の役を割り当てられた一六〇名以上の人名が書き上げられています（人名には「僧堂衆」などの表記があるので正確な人数は分かりません）。五〇年に一度しか行われない大遠忌の「差定」ですので、動員されている人数の多さが際立っています。

「差定」に列挙された六七の役は、大きく以下の三種類に分類することができます。すなわち、①宿坊・休憩所における参列者の接待、②伽藍・門・塔頭の警備、③斎筵（食事）における調理・配膳・接待です。

①の宿坊・休憩所は、御奉行（京都町奉行）・

雑色（京都町奉行配下の役人）・宮方（公家）・列岳諸山（五山を始めとする臨済宗各寺院）・在家向（檀信徒）・山内一衆（相国寺塔頭僧侶）に対して設けられました。身分の高い御奉行・雑色・宮方の接待には、僧侶と屋号をもった町人などが配置されています。この町人は、相国寺に出入りしている用達商人です。

②の伽藍・門・塔頭の警備は、主として相国寺領の村役人（庄屋・年寄）が動員されました。江戸時代の相国寺は、京都近郊の一八ヵ村に点在していた一七六二石余りの寺領から納められる年貢によって経営されていたのですが、中堂寺村（現在の京都市下京区中堂寺、村全体で八七七石余）の一石九斗五升八合（江戸時代の米一石は二・五俵ほど）など、それぞれの村には小さな寺領しかありませんでした。寺領が村々に点在していた理由は江戸幕府の寺社統制政策に求められますが、一石程度の寺領しかない村であっても、大法要の人手を集めるために必要とされたのです。

③の斎筵の調理・配膳・接待は、壱番座膳取次・味噌方・揚物方・膳椀洗方など、種々雑多な役がありました。役の多くは用達商人が担当しましたが、とにかく人手が必要なので、力者（寺に使える在家の家来）・僧堂衆・寺領の農民たちも駆り出されています。

江戸時代の相国寺で行われた大法要は、用達商人や寺領の村役人などで構成される幅広いネットワークによって支えられていました。相国寺以外の各宗本山も同様のネットワークを持っていたのであり、このような人のつながりが無数に積み重なって京都の町は成り立っていたのです。

（藤田和敏）

忌名	没年
一周忌（小祥忌）	令和五年（二〇二三年）
三回忌（大祥忌）	令和四年（二〇二二年）
七回忌（超祥忌）	平成三十年（二〇一八年）
十三回忌（称名忌）	平成二十四年（二〇一二年）
十七回忌（慈明忌）	平成二十年（二〇〇八年）
二十三回忌（思実忌・念三回忌）	平成十四年（二〇〇二年）
二十五回忌（大士忌）	平成十二年（二〇〇〇年）
二十七回忌（念七回忌）	平成十年（一九九八年）
三十三回忌（冷照忌）	平成四年（一九九二年）
五十回忌（五十遠年忌）	昭和五十年（一九七五年）

※年忌法要の詳細については、各菩提寺にお問い合わせください。

大本山相国寺御用達

御法衣・仏具

(株)後藤利法衣店

〒604-8273 京都市中京区西洞院通三条上ル
電話（075）221-4587
FAX（075）223-0094
フリーダイヤル（0120）014587

大本山相国寺御用達

社寺建築 **(株)北村誠工務店**

〒603-8225
京都市北区紫野南船岡東町45
電話京都（075）441-0563
FAX京都（075）441-0571

大本山相国寺御用達 文化財堂宇修復保存

社寺建築
数寄屋建築 設計・施工

澤甚株式会社 澤野工務店

SAWANO

本社
〒605-0069 京都市東山区東大路通知恩院前上ル2筋目東入
TEL(075)561-5394(代) FAX(075)533-3775
山科事務所・工房
〒607-8126 京都市山科区大塚元屋敷町62 TEL(075)541-1257(F)

大本山相国寺御用達

庭園 設計・施工

樋口造園株式会社

〒602-8341 京・上京区七本松通中立売下ル三軒町77
電話（075）462-1385
FAX（075）464-6120

天和三年創業 **大本山相国寺御用達**

簾 安田念珠店

〒604-8072
京都市中京区寺町六角角
TEL（075）221-3735
https://ssl.yasuda-nenju.com/

大本山相国寺御用達

精進料理

矢尾治

〒600-8486 京都市下京区高辻堀川町358
電話（075）841-2144
FAX（075）841-2110

夢のある空間づくりのパートナー

トータルディスプレイ 企画・設計・施工・管理
TOTAL DISPLAY
FUSHIMI KOHGEI
株式会社 伏見工芸

［本社］ 〒612-8009 京都市伏見区桃山町見附町11番地
TEL 075-621-2833 FAX 075-611-5465
［宇治工場］ 〒611-0041 京都府宇治市槇島町吹前15番地
TEL 0774-23-9255 FAX 0774-23-9254
e-mail:fushimi_@d1.dion.ne.jp

貴重な御法衣の御用は
大本山相国寺御用達

後藤新助法衣仏具店

〒616-8041 京都市右京区花園寺ノ前町30番地
電話(代表)(075)462-3915番
ファクシミリ (075)462-3616番
URL https://www.rinzai.jp
E-mail : rinzai@rmail.plala.or.jp

The Future Active Advance

株式会社 YAMATO Technical Systems

パソコンからネットワーク・サーバ構築まで
IT環境のトータルアドバイザ

〒604-8842 京都市中京区壬生土居ノ内町 19-13
TEL：075-311-9000
FAX：075-311-9494
e-mail：info@yamato-ts.jp

創業明暦年間

登録商標 **七味家**

〒605-0862 京都市東山区清水二丁目221
TEL(075)551-0738／FAX(075)531-9352
0120-540738（ゴヨウハシチミヤ）
9:00～18:00(冬季は9:00～17:00)
https://www.shichimiya.co.jp/

こころをつたえる

和文具 和雑貨

株式会社 表現社

〒602-0861
京都市上京区新烏丸通り荒神口南入る
TEL:075-222-1345／FAX:075-222-1354
https://hyogensha.net/

三楽税理士法人

代表税理士 奥谷昌雄

代表税理士 内藤 誠

〒602-8026
京都市上京区新町通椹木町上る春帯町340番地
TEL(075)256-2551 FAX(075)255-7461

式典写真、風景写真など
あらゆるニーズにおこたえします！

柴田明蘭 写真事務所

（公益社団法人）JPS 日本写真家協会 会員

☎090-8387-7735
FAX 075-311-9369
〒615-0057
京都市右京区西院東貝川町24 シェルブリュー四条 603

TDS

寺社の電気、空調、防犯、防災設備

有限会社 土橋電気設備

〒606-0953 京都市左京区松ヶ崎海尻町4番地4
まちゃまちゃ 105号
TEL 075-703-6331 FAX 075-703-6332

謹製 温故知新を織る…

株式会社 龍村美術織物

URL:https://www.tatsumura.co.jp/

関西店 〒615-0022 京都市右京区西院平町25
ライフプラザ西大路四条２階
TEL (075)325-5580 FAX (075)325-5606
関東店 〒104-0042 東京都中央区入船1-5-11
弘報ビル６階
TEL (03)3551-5756 FAX (03)3551-8117

お越しいただくあの方の為に
あなたの想いの一番近くに

イベント設営・レンタルの京老舗

有限会社 テラヲ貸物店（てらおかしものてん）

075 - 414 - 1464
office@terao-rental.com
https://www.terao-rental.com

広く
深く
つなぐ

創刊明治30年 宗教専門紙

中外日報

https://www.chugainippoh.co.jp

購読・試読サービスのお申し込みは

0120-015-177

京都本社 〒601-8004 京都市南区東九条東山王町9 TEL.075-671-4800
東京支社 〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-13 TEL.03-3816-4721

JTB 感動のそばに、いつも。

JTB京都中央支店 TEL. 075-284-0173
〒600-8421 京都市下京区綾小路通烏丸西入童侍者町 167 AYA四条烏丸ビル 2F
営業時間 9:30～17:30／土・日・祝日・年末年始休業

大本山相国寺御用達
寺社庭園・町屋庭園・露地庭
作庭 管理
長岡造園
〒616-8305 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町13-3
電話(075)872-0005 FAX(075)872-0004
HP:nagaokazouen-kyoto.com

大本山相国寺御用達
京仏具・仏壇
株式会社 佛光堂
〒600-8033
京都市下京区寺町通仏光寺下る
(四条寺町、南へ200M、西側)
TEL(075)351-4092 FAX(075)351-7231

大本山相国寺御用達
京都市指定
有限会社 丸水設備工業
●上下水道衛生設備 ●ポーリング井戸 ●消火栓設備
●庭園池の濾過設備 ●お墓の雨水処理 ●設計施工
〒603-8354 京都市北区等持院西町32
TEL(075)462-8888(代) FAX(075)462-8998

受け継がれるご奉仕の心を大切に
土産品 記念品
オリジナル商品をお創りします
ACT MIYAKO 株式会社 アクトみやこ
〒615-8083 京都市西京区桂艮町15-24
TEL.075-634-5084 FAX.075-634-5085
E-mail:taichi-matsuo@actmiyako.co.jp

京名物 夷川五色豆
京銘菓 月しろ
創業明治17年
京都 夷川
豆政
京都市中京区夷川通柳馬場西入六丁目264
TEL 075-211-5211 FAX 075-211-4520

大本山相国寺御用達
深草瓦師 寺本甚兵衛
(株)寺本甚兵衛製瓦
〒612-0873 京都市伏見区深草瓦町 20
電話（０７５）６４１－０２８７
FAX（０７５）６４１－９７７１

京菓子司
千本玉寿軒
〒602-8474
TEL:075-461-0796 FAX:075-464-6717
京都市上京区千本通今出川上ル上善寺町 96
http://sentama.co.jp/

ブライトホール
家族葬専用 別邸
公益社
0120-004-200
24時間365日対応 無料相談

www.shoyeido.co.jp

香

大本山相国寺御用達

香老舗 松榮堂

京都本社／京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL 075-212-5590 FAX 075-212-5595
東京支店／東京都中央区日本橋人形町 2-12-2 TEL 03-3664-2307 FAX 03-3639-4969
札幌支店／札幌市中央区南８条西 12 丁目 3-6 TEL 011-561-2307 FAX 011-563-3502

京都本店　産寧坂店　京都駅 薫々　嵐山香郷　大阪本町店　銀座店　人形町店　横浜店　札幌店

新しい波を起こせ。

2023年10月。京都銀行とグループ各社は

京都フィナンシャルグループに。

銀行業を超え、地域の成長を牽引し、ともに未来を創造する

総合ソリューション企業になります。

京都フィナンシャルグループ　京都銀行

YPG

ヨシダ印刷株式会社
株式会社ヨシダ洋紙
株式会社ヨシダ七尾
ワイピービズインプルーブ株式会社

ANA CROWNE PLAZA KYOTO

世界の歴史都市、

京都の中央に位置し、

世界文化遺産「二条城」の前に佇む

ANA クラウンプラザホテル京都。

ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com

御法衣・御袈裟・御水引・戸帳・打敷

華蔓・御晋山式用品一式・稚児装束

大本山 相国寺御用達

橘兵　草木兵助商店

〒604-0024　京都市中京区衣ノ棚通御池上ル西側
電話（075）221-0934番　振替京都01090-4-3476

大切な文化財を始め、建物の安全と安心の為努力しています

電気設備工事・消防設備工事

ADACHI 足立電気工業株式会社

〒601-8045
京都市南区東九条西明田町34-21
TEL 075-681-4461　FAX 075-681-9767
E-mail：adachi-d@guitar.ocn.ne.jp

抹茶

全国並びに関西茶品評会第一位
自園茶 農林水産大臣賞31回受賞

有馬頼底管長御好

御濃茶　萬年乃翠（まんねんのみどり）

御薄茶　常光（じょうこう）

大本山相国寺御用達

宇治 久 小山園

京都府宇治市小倉町寺内八六番地
お問い合せ（〇七七四）二〇・〇九〇九
●西洞院店　茶房「元庵」水曜休祝営業
京都市中京区西洞院通御池下ル
電話（〇七五）二二三・〇九〇九
●ジェイアール京都伊勢丹店 地下一階
●京都高島屋店 地下一階 和菓子売場
▌お取り扱い▌全国有名茶店・茶道具店
www.marukyu-koyamaen.co.jp

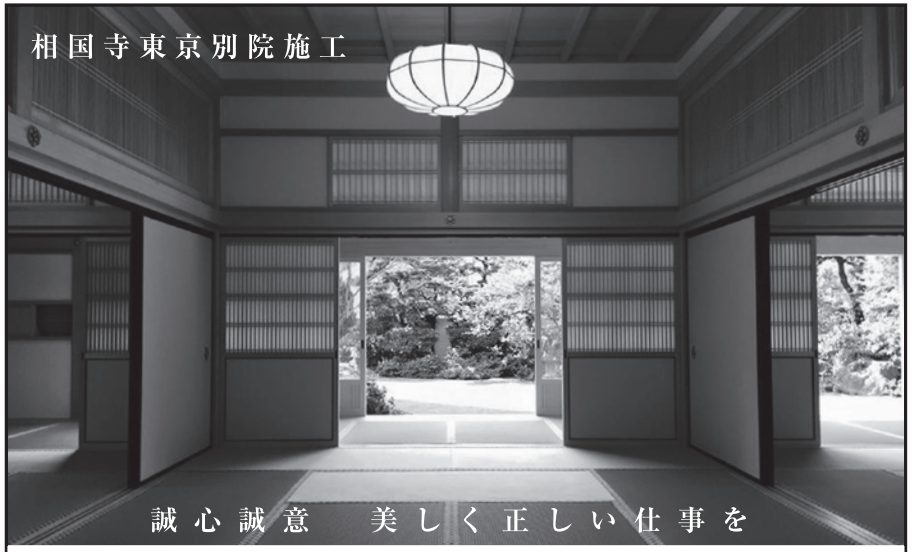
大本山相国寺御用達・大涅槃図保存修理

文化財保存修理・文化財デジタル複製・文化財 IPM 調査・文化財調査
一般表具・絵画企画製作・漆 / 金箔施工工事・襖紙 / 御殿引き手発売元

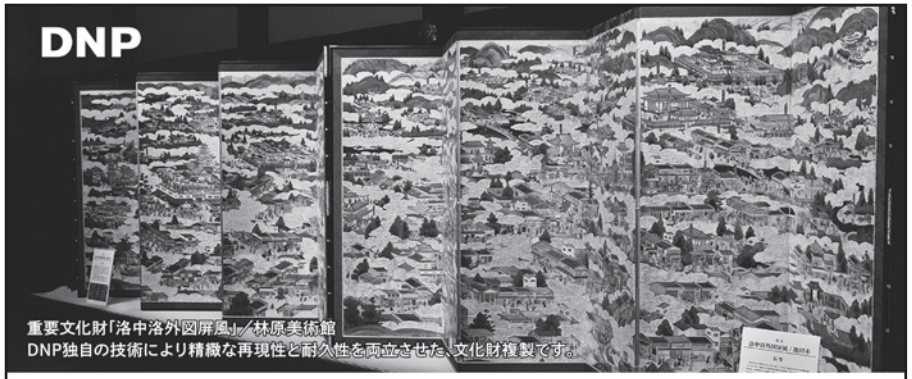
京表具　浩悦庵（こうえつあん）

古文化財保存修理研究所　（有）矢口浩悦庵

本社・工房
〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町 318 番地
TEL(075)254-6021（代）/FAX(075)254-6022
www.koetsuan.com 東京営業所 Tel(042)442-0177



株式会社 水澤工務店
東京都江東区木場５丁目６番地１号
TEL 03-3641-7111
URL www.mizusawa-inc.co.jp



歴史を未来につなぐ技術。

私たちは、これまで培ってきた印刷技術と情報技術を生かし、
かけがえのない文化遺産の保存と継承に貢献しています。

DNPenguin

未来のあたりまえをつくる。　大日本印刷株式会社

皆さまのお役に立てる、
コインパーキング。

着実に、一歩一歩。

キョウテク株式会社

本社
TEL 075-365-8000　FAX 075-365-8080
〒600-8172　京都市下京区下平野町483番地1

相国寺御用達　北山金閣寺御用達　東山銀閣寺御用達

五紋

享保十一年創業　清酒「五紋神蔵」醸造元
松井酒造株式會社
京都市左京区吉田河原町１の６　電話 075（771）0246

京都支店 TEL.075-231-8881
〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 みずほ銀行京都支店2階

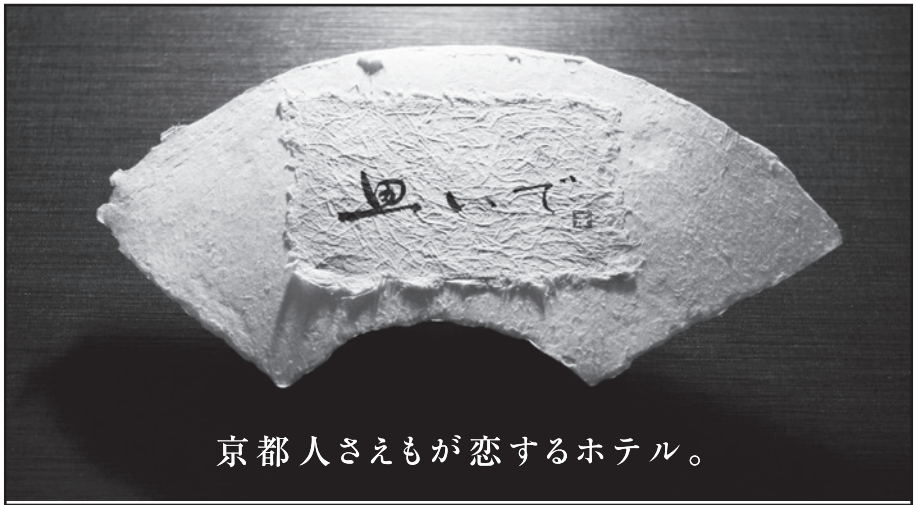
株式会社 竹中工務店

建物の総合管理（警備・清掃・設備・植栽）

抗菌・抗ウイルスの効果が持続する薬剤
KYOHPARA Alivio
販売をいたしております。

SARS-CoV-2（新型コロナウイルス）を対象とした
反応検査で不活性化を確認できました。

都総合管理株式会社
京都市上京区堀川通中立売上ル福大明神町119番地の1
TEL：075-415-0001　FAX：075-415-1155

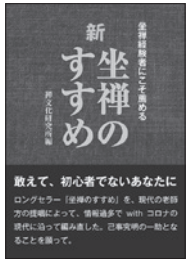


BRIGHTON KYOTO
〒602-8071京都市上京区新町通中立売（御所西）
TEL.075-441-4411（代）　FAX.075-431-2360
https://kyoto.brightonhotels.co.jp/

禅のことをもっと……

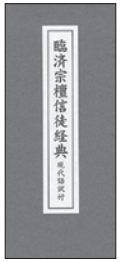
あなたが信仰されている臨済宗・黄檗宗の教理や歴史について、もっと知りたくありませんか？ 禅文化研究所では入門書から専門書まで幅広く発行いたしております。

おすすめ本のご紹介



新 坐禅のすすめ
定価 1,320 円

維摩経 ファンタジー
定価 1,430 円



臨済宗檀信徒経典
定価 715～880 円
（数量によって価格変更あり）

季刊『禅文化』
年間購読料
5,280 円

書店やネットでも購入できます。価格はいずれも税込みです。

お申し込み、お問い合わせは下記まで

公益財団法人 禅文化研究所
〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 花園大学内
メール : sales@zenbunka.or.jp
TEL 075-811-5189
FAX 075-811-1432

●編集後記●

◇あけましておめでとうございます。相国会会員の皆様、本派各ご寺院、また関係各位の皆様におかれましては、お変わりございませんか。本年は辰年ですので、表紙も相国寺法堂の「蟠龍図」でスタートです。天に向かって昇りゆく龍にあやかって、日々の生活を送りたいものです。

◇さて、アフターコロナの相国寺では、昨秋より諸行事をコロナ禍以前とほぼ同様の規模、日程で再開いたしました。特に10月21日の「開山忌法要」では、相国会会員の檀信徒の皆さまの団体参拝を再開することが出来ました。久しぶりに相国寺にお参り下さった読者の皆様もおられると思います。

◇カラーページなどでも報告しましたように、５年ぶり開催の「相国会本部研修会」、同じく４年ぶりの「相国寺派寺庭婦人研修会」を無事に終えることが出来ました。それぞれ有馬管長からのご垂訓を頂くことが出来、内容のある有意義な研修会となりました。また相国会会員の方から『般若心経』の写経を千巻納経して頂きました。誠に有難うございました。

◇前号小欄で予告しましたが、相国寺派の教義、宗風を記した『私たちの宗旨』が出来上がりました。本誌と共に相国会会員（相国寺派寺院の檀信徒）の皆さまへ各寺院より配布をお願いしております。経本のような折本になっておりますので、お仏壇などの引き出しに入れていただき、折に触れてお目通し下さい。各寺院に掲示していただく『私たちの宗旨』は、相国寺派ホームページでもご覧いただけます。

◇龍は仏法の守護神であり、宗門でも古来より経典や寺名、天井画や襖絵をはじめおなじみの存在です。龍王、龍神などともいいますし、皆様がお住まいの地域でも、神仏問わず伝説があり信仰の対象になっているのではないでしょうか。『法華経』には「八大龍王」が登場し、その名をお唱えします。難陀・跋難陀・沙羯羅・和修吉・徳叉迦・阿那婆達多・摩那斯・優鉢羅の八つの龍王で、天龍八部衆に所属し、水を司っているそうです。

◇谷村新司さん作詞の歌に、「花は花よ　ひたすら咲く　花は花よ　ひたすらに舞う　花は花よ　ひたすら咲く　花は花よ　ひたすらに散る」という一節が有ります。花の真なる姿がそこに表現されていると感じます。人もまた、そうでありたいと。

◇冒頭の御挨拶文をはじめ、円明法話、研修会感想文、各原稿記事、写真、広告などをお寄せいただいた皆様のご協力により、第121号（お正月号）を無事お届けすることができました。寒中ご自愛いただくと共に、「承天閣美術館」開館40周年となる本年も、相国会ならびに相国寺派をどうぞよろしくお願いいたします。

（江上正道　記）

円明（えんみょう）
令和6年（2024）正月号（第121号）
令和6年（2024）1月1日発行（年2回）

編　集／相国寺派宗務本所　教学部
発行所／大本山相国寺・相国会本部
〒602-0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町701　TEL075-231-0301　FAX075-212-3591
URL　https://www.shokoku-ji.jp　　E-mail　kyogaku@shokoku-ji.jp（教学部）
制作・印刷／ヨシダ印刷株式会社　　カット／BUN

『円明』誌は、環境にやさしい「水なし印刷」「Non-VOCインキ」で印刷しています。

第58回「京の冬の旅」非公開文化財特別公開

～秘められた京の美をたずねて～

国宝・重要文化財など、多くの歴史的文化財が残る京都でも、通常公開されているのはその一部であるといわれています。

普段は見学できない貴重な文化財を特別公開する**第58回「京の冬の旅」**非公開文化財特別公開のテーマは**「紫式部と源氏物語」**と**「辰年のご利益　京の龍めぐり」**。

2024年の大河ドラマ「光る君へ」の主人公・紫式部と、1000年にわたって読み継がれてきた王朝文学の金字塔『源氏物語』にちなんで、物語ゆかりの地にスポットをあてます。また「辰年」にちなんで、新年早々縁起の良い瑞獣「龍」に会える寺院を中心に、貴重な文化財の数々を期間限定で特別公開します。**「京の冬の旅」初公開の文化財**を含む**15ヶ所**での特別公開です。

■公開期間　2024年1月6日㈯～3月18日㈪（「相国寺　法堂・方丈」は期間が異なりますので、ご注意ください）

■公開時間　10：00～16：30（16：00受付終了）（「慈雲院」は時間が異なりますので、ご注意ください）

■料　金　1ヶ所　大人（中学生以上）800円／小学生400円

■拝観方法　団体については、他団体等との時間調整を要しますので、事前に京都市観光協会へご予約願います。少人数の個人については予約は不要です。公開時間内に各対象箇所へお越し下さい。

❖お問い合わせ先：「京の冬の旅」コールセンター
TEL　075―585―5181
（2023．11／16～2024．3／18までの9：00～17：00　12／29～1／3休）

都合により、事業の中止や内容が変更される場合があります。

相国寺　法堂・方丈

「京の冬の旅」6年ぶりの公開

＊相国寺　法堂・方丈／
1月12日（金）～3月12日（火）の公開。
1月15日（月）、2月15日（木）は12：00～の公開。

京都駅から地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、①番出口から徒歩約5分

相国寺　光源院

「京の冬の旅」初公開

～色彩豊かな十二支の襖絵と昔話の潜む襖絵～

京都駅から地下鉄烏丸線「今出川」駅下車、①番出口から徒歩約5分

相国寺　慈雲院

「京の冬の旅」初公開

～伊藤若冲が師と仰いだ大典禅師ゆかりの寺～

＊相国寺　慈雲院／10：00～16：00（15：30受付終了）

京都駅から地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅下車、①番出口から徒歩約5分

相国寺派以外に12か所が公開されます。

大徳寺　法堂・仏殿
大徳寺　龍源院
仁和寺　金堂（裏堂）
廬山寺
泉涌寺　舎利殿
泉涌寺　雲龍院
渉成園（枳殻邸）園林堂
西本願寺　飛雲閣（外観）
東寺　五重塔
醍醐寺　霊宝館

僧侶がご案内する特別拝観

東本願寺　諸殿
西本願寺　書院・飛雲閣（外観）

※一部料金の異なる寺院がございます。
また「僧侶がご案内する特別拝観」の二カ寺についてはWEBからの予約が必要です。

相国寺 春の特別拝観

令和六年三月二十三日(土)～六月二日(日)

拝観時間：午前十時～午後四時

※四月八日(月)は法要・行事のため拝観時間に一部変更があります。

拝観場所：法堂・方丈・開山堂

拝観料：一般・大学生八〇〇円／六五才以上・中高生七〇〇円

※団体割引有り　※法要・行事のため、予告なく拝観休止または拝観場所・拝観時間を変更することがあります。

法堂内「蟠龍図」

開山堂庭園

撮影◎柴田 明蘭

辰年にちなみ 各寺院様「団体参拝」の 申し込みを受け付けます

令和６年（2024）の干支は甲辰です。12年に１度の辰年にちなみ、各御寺院様で相国寺本山団体参拝を企画されませんか。

相国寺の法堂は慶長10年（1605）の再建で現存最古であり、天井には「鳴き龍」で有名な狩野光信筆による「蟠龍図」が画かれております。通常の春と秋の特別拝観に加えて、本年は１月から３月中旬も京都市観光協会による第58回「京の冬の旅」において特別公開を致します。

各御寺院様の檀信徒様への布教教化活動、交流の一環で、この機会に本山参りを企画されてはいかがでしょうか？

お気軽に教学部までお問い合わせください。

・特別拝観可能箇所は「法堂」「方丈」「開山堂」
・書院で「歴史解説」や「法話」、「坐禅会」などもご希望に応じて受け付けます。
・10月21日の「開山忌」団体参拝と異なり、方丈の御朱印所や売店も含めて、各所をゆっくりとご参拝していただけます。
※行事等により一部拝観不可日あり

［お問い合わせ先］
相国寺派宗務本所 教学部
TEL 075-231-0301
eメール：kyogaku@shokoku-ji.jp

北山だより

鹿苑寺方丈特別公開について

二〇二三年十一月一日から十二日の日間、鹿苑寺では二〇一四年秋以来九年年ぶりに、京都古文化保存協会主催の「第五十九回京都非公開文化財特別公開」に参加、（普段は一般に公開されていない）方丈を特別公開致しました。

特別公開では、江戸時代初期に建立された建築様式を実際に入堂して体感いただくほか、同時期に描かれた狩野派による襖絵を間近でご覧いただき、さらに今回の特別公開に花を添えるかたちで秘蔵の掛け軸や屏風の展示を致しました。

開始前の準備として、方丈特別公開の入り口となる唐門の整備を行いました。しばらくの間、使用されていなかったため、汚れや痛みがありました。まずは、唐門の煤（すす）払いを行った後に方丈に繋がる敷瓦及び方丈周りの敷瓦を補修して、磨きをかけました。

また、お越しいただいた皆様につつがなく拝観していただくための動線用設備の準備をいたしました。

今回の特別公開では地元京都をはじめ、全国各地からの参拝者や多くの外国人の方々にご覧いただきました。

方丈 外観

方丈 唐門

東山だより

秋の特別拝観について

慈照寺では、春に引き続き秋の特別拝観を十月一日から十二月三日まで開催いたしました。特別拝観に相応しく国宝・東求堂内の書院「同仁斎」に室町時代の書院飾を再現しました。同仁斎は付書院や違棚を備えた四畳半の和室で、付書院は義政公が机として書を読まれ、書き物をされたとされる茶室四畳半の始まりと言われているものです。義政公の同朋衆が書いたとされる巻物「君台観左右帳記」に基づき、義政公にゆかりがある筆や硯などの文房具や茶道具二十二点を飾りました。

水色の青く澄みきった秋空の下、書院飾を目的に拝観申込みをされる方や春の特別拝観の印象をもとに今回も足を運ばれたという方もおられました。また、特別拝観のために心を込めて揮毫した特別御朱印も多くの皆さまに手にしていただきました。

晩年の義政公が、混乱する世情と幕府の行く末を案じ沈思黙考された貴重な空間に身を置き、当時に思いを馳せていただけたと思います。

東求堂

秋の特別拝観の様子

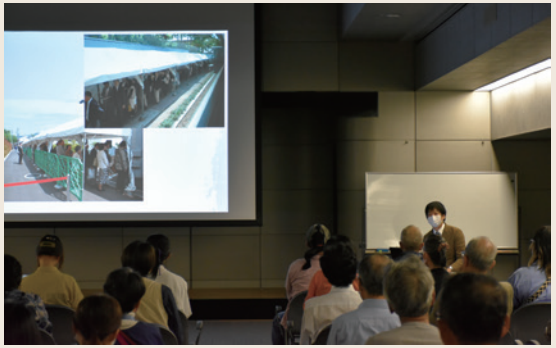
御朱印

現在の展観【若冲と応挙】

Ⅱ期　令和五年十一月十九日(日)～令和六年一月二十八日(日)
（年末年始休館 令和五年十二月二十七日(水)～令和六年一月五日(金)）

十八世紀の京では、多くの絵師が各々の画技をふるいました。なかでも、伊藤若冲と円山応挙は現在も愛好者の多い、人気の絵師です。

本展覧会では、相国寺と伊藤若冲の関係を軸に、相国寺と相国寺塔頭所蔵の作品を公開いたします。Ⅱ期は、伊藤若冲の傑作、重要文化財の『鹿苑寺大書院障壁画』五十面を一挙公開しております。



【若冲と応挙】展　村田隆志氏　記念講演

令和五年十月十四日に「若冲と応挙」展を記念し大阪国際大学国際教養学部教授の村田隆志氏を招き講演会を開催いたしました。『若冲の画業と相国寺』と題し、[若冲の半生、若冲と禅、応挙と用筆」について、熱く語っていただきました。

関連イベント予告

記念講演講師　皇居三の丸尚蔵館　学芸室研究員　上嶋悟史氏
日　時　令和六年一月十三日(土)十四時～　二階講堂
参加料　無料（当日の拝観券が必要）

ギャラリートーク　当館学芸員　本多潤子
日　時　令和六年一月六日(土)十四時～　展示室
参加料　無料（当日の拝観券が必要）

好評につき【若冲と応挙】展 会期延長

同展覧会は多くのメディアやSNSで紹介され高い関心を集め、老若男女問わず多くの来場者に好評を得ていることに加え、ご来場を希望される多くの声を受け、令和六年二月二十五日(日)まで会期を延長します。（展示替えの為、一月二十九日から三十一日までの三日間休館）

今年の二月は特に三連休が二回有り、また、同時期に京都市観光協会主催の『京の冬の旅』で【相国寺法堂・方丈、光源院、慈雲院】が特別公開されますので、多くのお客さまにご来場いただきたいと思います。

次期展覧会予定

「頂相（ちんそう）―祖師たちの絵姿」

達磨を初祖に仰ぐ禅の教えは師から弟子へ連綿と受け継がれ、今にその法脈が受け継がれています。相国寺は、夢窓疎石を勧請開山に仰ぎます。その法は鎌倉時代に日本へやってきた無学祖元から日本僧、高峰顕日へ伝えられ、夢窓疎石に継がれたものです。

法が継がれたその象徴として、師の絵姿や袈裟が弟子に継がれます。その絵姿を頂相といいます。頂相は法を嗣いだ証であるだけではなく、師の回忌法要の際にもかかげられました。達磨忌や夢窓疎石の遺徳を仰ぐ開山忌などは、今も相国寺の重要な仏教行事として厳修されています。

本展覧会では、法脈を今に伝える頂相を数多く初公開いたします。相国寺本山と、相国寺の塔頭それぞれに育まれた禅僧の営みを、ご覧ください。

Ⅰ期　令和六年三月十七日(日)～五月十二日(日)
Ⅱ期　同年　五月二十六日(日)～七月二十一日(日)

宝物拝見

中維摩居士左右雲龍図　狩野洞春筆

三幅対　絹本著色　江戸時代　十八世紀　相国寺蔵　各縦一六七・三　横八四・七

三幅対の中幅に描かれた人物は維摩という人物で、仏教の開祖釈迦の時代を生きた大富豪の在家仏教徒とされる。『維摩経』の主人公で、文殊菩薩との問答が知られる。そして右幅には、雲から水面に向かう降龍の姿が、左幅には水面から雲へむかう昇龍が描かれている。旧箱の蓋表には墨書で「後水尾院御寄附　狩野洞春筆三幅左龍　中維摩　右龍　相国寺」と記されている。

描いた絵師、狩野洞春福信（生年不詳～一七二三）は、狩野洞雲（初代）の養子で駿河台狩野家二代である。相国寺の日記にも登場する。その関係が最も密であったのが宝永度内裏造営の際であった。相国寺とその塔頭は、宝永五年（一七〇八）の内裏造営の際に絵所として場所を提供した。宝永六年（一七〇九）七月二十九日の『参暇寮日記』には、絵所となった寺の巡見にきた幕府の老中に、狩野永叔と洞春が呼び出され、寺内を巡っている記事が残っている。ここから、相国寺塔頭を拠点として洞春も御所の障壁が制作に従事していたことがうかがえる。なお、この時に洞春とともに相国寺を拠点として障壁画制作に臨んでいる永叔の作品〈中達磨左右六祖臨済図〉も相国寺に残る。達磨が中央、左右に六祖禅師と臨済禅師が描かれた三幅対で表具裏に「仙洞御寄附」と墨書が残る作品である。相国寺が御所の造営の際に絵所となることは、それ以前にもあった。明暦元年の造営の際にも絵所となり、狩野派の絵師たちが滞在していた。その時狩野派の絵師たちは列祖図を作成し相国寺に寄進している（三月十七日からの頂相展に出陳予定）。

この三幅は相国寺本山で毎年十月二十一日に厳修される開山忌において方丈に掛けられる。法堂、開山堂で

（左幅）　（中幅）　（右幅）

中維摩居士左右雲龍図　狩野洞春筆

法会が厳修された後、この掛物が掛けられた場所を上座として斎座が催され、法要に参加した人々が食事をとるのである。表方丈には維摩、裏方丈も使う場合は〈縄衣文殊像〉が掛けられる。

開山忌は開山である夢窓疎石を祈りの対象とする法要である。法堂では須弥壇上に夢窓疎石像が据えられ、開山堂の夢窓疎石像をまつる昭堂空間も開山忌用の水引や戸帳などで荘厳される。さらに参列者をもてなす空間にも荘厳がなされ、書院には夢窓疎石の墨蹟〈別無工夫〉を、そして表方丈西面に本作品が掛けられる。法要を終えた後、参列者は方丈へ移動する。左右の龍図がかかるそれぞれの床面に毛氈が敷かれ、維摩を中央に向かい合うように参列者が座し、食事をして帰路につくのである。このように、現在も年中行事に用いられ続けている、重要な什物である。

作品解説／承天閣美術館　学芸員　本多潤子

第四十回 相国寺派寺庭婦人研修会 四年ぶりに開催！

令和5年10月25日～26日

（詳細は本山だより46ページを参照）

相国寺拝観の様子

松栄堂畑社長よりご挨拶をいただく

ワークショップ「匂い香」作りに挑戦

記念撮影

清水寺森宗務長（右端）より「西門（さいもん）」にてご説明を受ける

撮影◎教学部

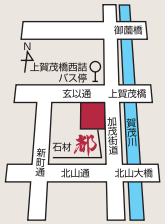
永遠（とわ）の安らぎ　―石のカウンセラー―

株式会社 石材 都（みやこ）

相国寺供養墓

Co., Ltd 都 STONE

社長 吉田健次



正月以外無休　営業時間／AM8:30～PM6:00（日曜日PM5:00まで）

本　社：〒603-8103
京都市北区小山北玄以町24番地　電話(075)491-4114(代)（ヨクソ ヨイイシ）
（上賀茂橋西詰バス停前）

工　場：京都市北区上賀茂神山389番24　電話(075)702-2440
（洛北病院バス停前）

御一報次第、遠近を問わず参上いたします。

心のすがた

眼裏有塵三界窄
心頭無事一牀寛
（夢窓国師語録）

「眼裏に塵あれば三界は窄（せま）く、
心頭無事なれば一牀寛（ゆたか）なり」

心のありよう一つで、
視野は狭くも広くもなる。
自我に固執しなければ、
苦から解放の道筋がある。

令和五年相国寺開山忌法要　撮影◎教学部